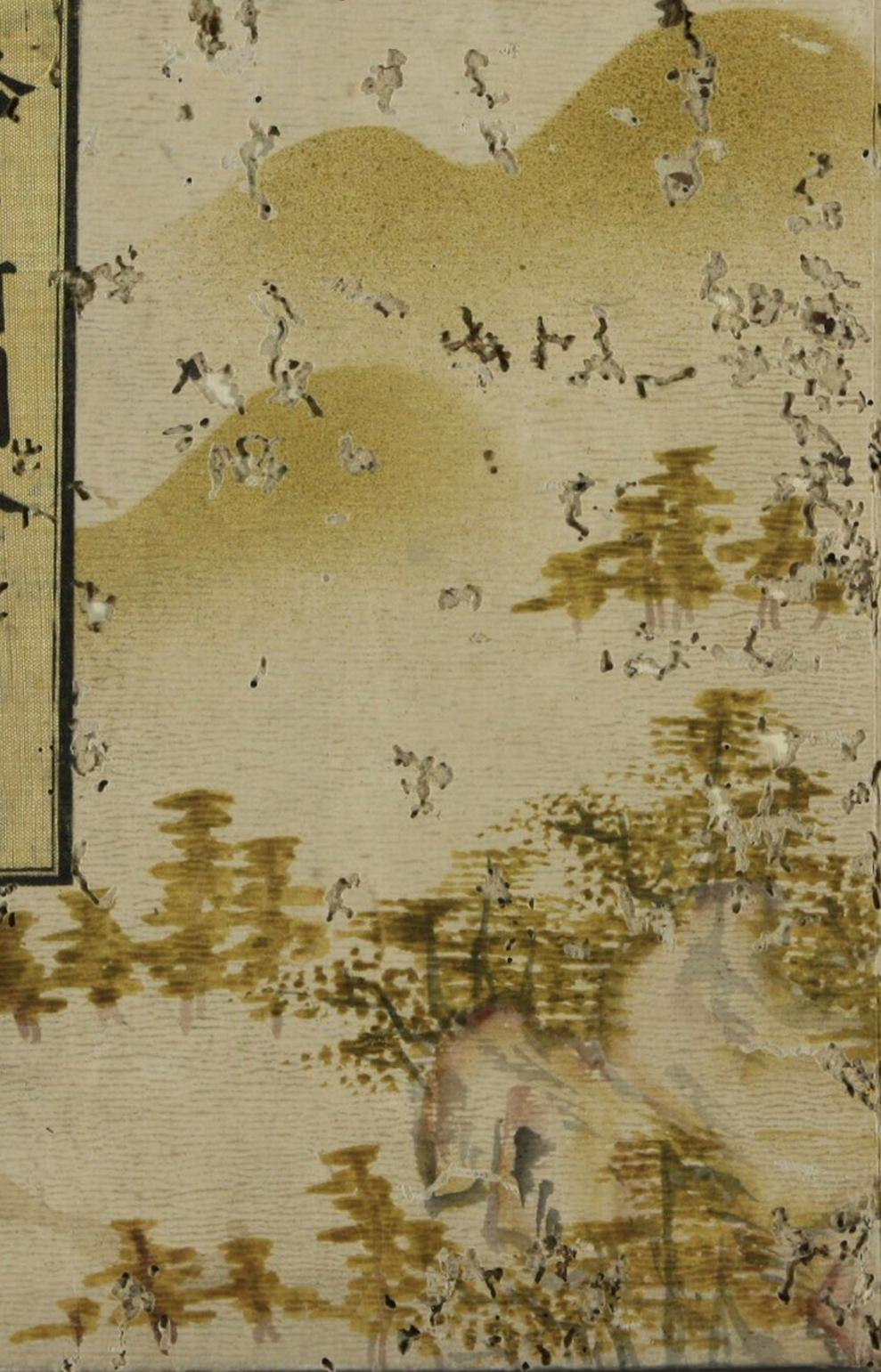


木曾路名所圖會 三



木曾路名所圖會卷之三

目錄

○落合
 霧原山
 第本
 皂鵬巖
 丸山城跡
 岐阻路山中
 光德寺
 兜巖
 ○三富野
 羅天橋
 牛頭天王
 劍宮
 御坂古蹟
 兼好法師跡
 下坂川
 吉蘊路
 雄雄瀑布
 妻籠古城
 風越山
 園原先生碑
 伊勢山
 住吉祠
 熊野權現
 十曲嶺
 茵原
 鎌倉街道
 諏訪祠
 木曾川
 大妻籠
 鯉巖
 古本岳
 牧澤橋
 赤坂蘇嶽
 白山権現
 榮覺寺
 義信園塚
 伏見邑
 ○馬籠
 永昌寺
 ○妻籠
 牛頭天王
 烏帽子巖
 捨樹澤
 横川戸橋
 揚籠山
 若宮祠
 觀音堂



○ 岩戸親音

鹿島祠
妙覺寺
長野
貴布祢祠
阿滿橋
淨勝寺
小野滝
獸類皮店
鹿嶋祠
本曾根洞跡
本曾川
興善寺

名産和合酒

飯盛山
白山権現
野尻家
今野兼平城
出雲祠
磐出親老
本曾義昌家譜
赤魚
月家譜
研大谷
正八幡宮
榎次郎兼光館
萩曾川
藪原
五多田橋
鳥居嶺
網懸嶺
奈良井義高家
諏方祠
熱川

三白聖邸

本曾大河
住吉祠
本戶致春家
本曾殿館
天長院
須原
除川寺
阿彌陀堂
三飯廻翁閑居
御嶽
福島
箱荷祠

木曾古道

牛頭天王
諏方祠
聖尻城山
弓矢八幡
辨財天森
伊奈川橋
麻海祠
寢覺床
氣比祠
上松
御嶽鳥居
福徳園隘
長福寺

○ 官腰

義康古城
名産
権守兼遠家
野婦池
本曾義仲城
山吹山
義仲手洗水
藪原宅
名製表土掃
鎮明神祠
長泉寺
名造諸器
櫻澤橋

○ 本曾義昌家譜

名製表土掃
水精山
斬蛇潭
南宮祠
今井節兼平城
往還橋
熊野權現
巢鷹官舎
義仲硯水
奈良井橋
千村重照宅
平澤
構小澤

○ 奈良井

大寶寺
土産
土産
熱川驛
諏方祠

赤魚
研大谷
正八幡宮
榎次郎兼光館
萩曾川
藪原
五多田橋
鳥居嶺
網懸嶺
奈良井義高家
諏方祠
熱川

本曾義昌家譜
名製表土掃
水精山
斬蛇潭
南宮祠
今井節兼平城
往還橋
熊野權現
巢鷹官舎
義仲硯水
奈良井橋
千村重照宅
平澤
構小澤

明星巖
德音寺
巴御茶第蹟
德音寺橋
極樂寺
土産
土産
奈良井
大寶寺
土産
熱川驛
諏方祠

親善寺
 千村俊政家
 五月日橋
 黒川温泉
 箕池山
 西野
 氷湍園道
 本尊殿墓
 幸山
 吾光寺乃
 塩尻

鷲着寺
 萩曾
 夜更着病
 山神祠
 烽火臺
 黒澤
 土産
 兼遠墓
 幸山親音
 桔梗原
 塩尻嶺

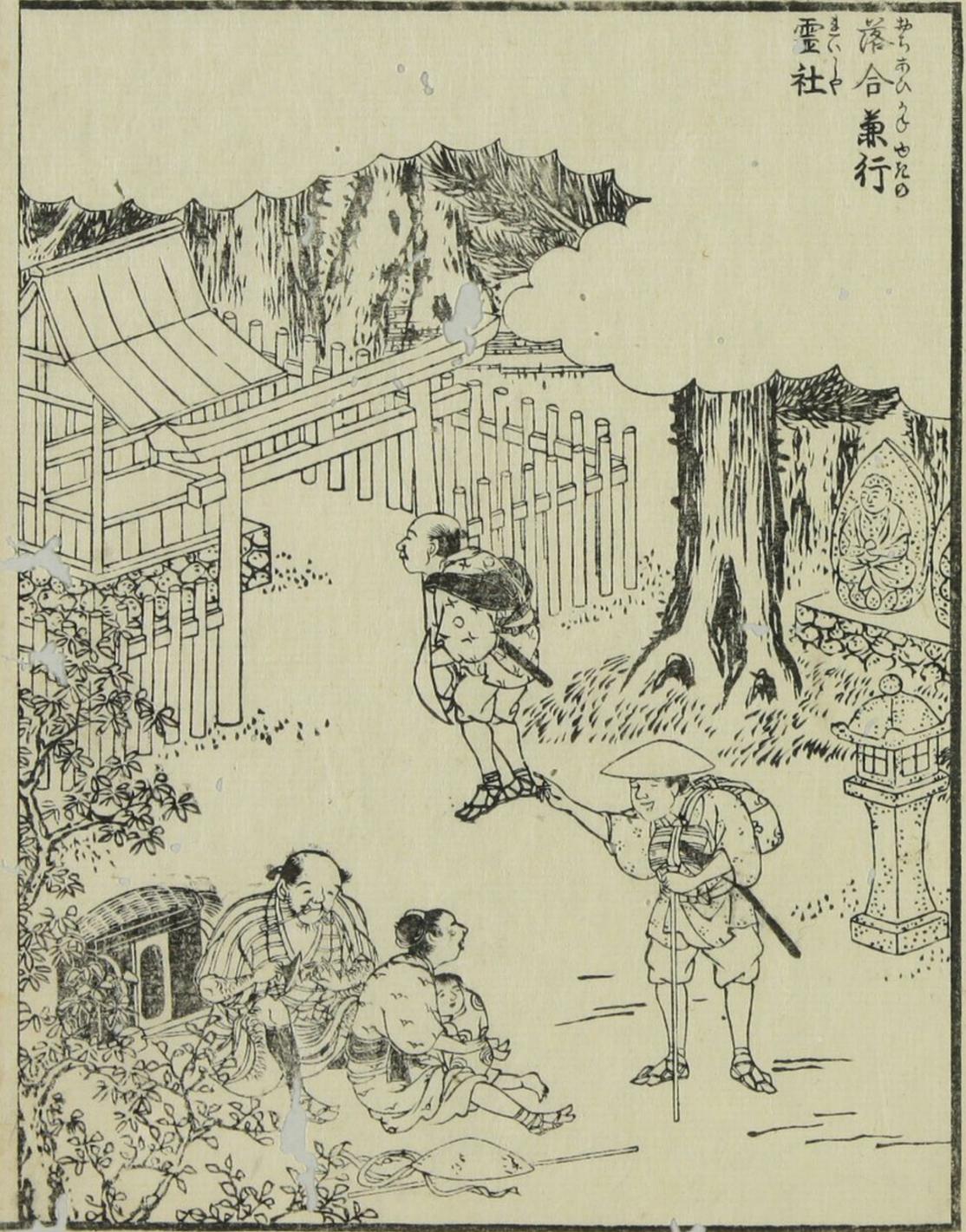
相菴橋
 諸獸
 赤川
 駕取宿
 小子墳
 御嶽権現
 崩城古城
 洗馬
 大綱清水
 淡間祠

熱河四郎宅
 土産
 秀綱澤
 燒棚山
 地渡澤
 御嶽山
 岩戸権現
 三浦山
 義仲馬洗水
 阿禮神社
 大岩

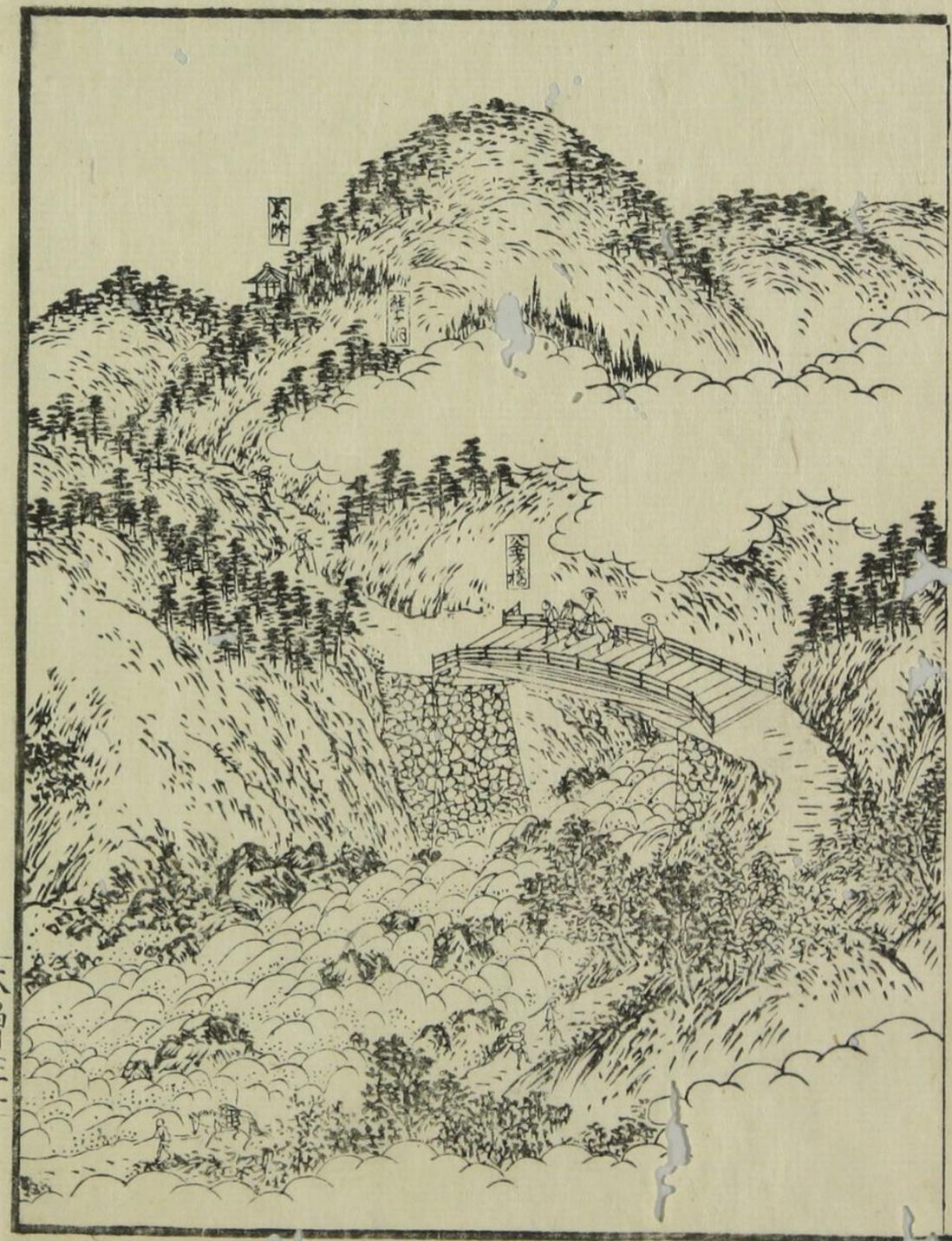
本曾路名新圖會卷之三目錄終

本考三回二

本曾路名新圖會
 卷之三目錄終
 靈社



落合橋
 十曲嶺
 美信二州の
 國界



木田三十一

木曾路名所圖會卷之三

落合（信濃）

馬籠まで一里五町は宿と若竹砲を製して清る若木
いみし（落合五郎兼能とらふ若居宿の地あり駒の西
方小杉の大樹多くある林あり其中小落合の即が靈と云ふ
洞ありは宿賤し

落合橋

宿の入口にあり金ヶ橋ともいふ双方より梁張出しく

十曲嶺

坂の九折多しを名ふ嶺

美濃信濃

十曲嶺あり

霧原山

霧原より東に二里許あり山中一里餘平地あり

御坂山古道

濃州大井驛の十軒林より本宿路よりふ之室二年夏は必
本宿路をゆくといは街道なり圖示を経て伊奈郡小室ふ

千代

千代を耕す一ツの壺を得たり其中小杉七
寶あり其餘を宋錢にして平堅彩志豊志尚徳照嘉
定大觀政和

後拾遺

あゝ雲のうらうら見ゆるあゝ引の山は言根津坂かゝる

夫本

信濃乃竹藪の河々せうらるる本宿の津坂の糸ふらり

新十

谷風小雲をせいのれ信濃路やせこれ津坂乃々之をん

古事記

日本武尊條曰越科野國言向科野之坂神而還來尾張

國云

倭武尊信濃を至美濃へ出るとて大坂の坂を越るとり食於山中

景行紀

山の神自ら麻と成り清茶よまらる麻をりてささけなふ

千惠法師

これ目小あゝりて倒まぬ種糸信濃坂と越るそのおほく神ま

千惠法師

氣よらるる榎ひるふけ付より後藤を齎る人及び牛馬小塗を

千惠法師

おのぼるる神の氣ふあゝりて又曰る山中に道を去ひてゆく小

千惠法師

會活抄卷之

白狗導をなれ状ありて吳法本出のふと云

今いひく信濃守藤原陳忠と云人あり

元方の二男なり四五任國畢てなれ上

位下儀法本但せり

た小翁を養ふ人の宗なる中に守の兼らる馬

本を後足坂の踏折る守達さぬ馬よ兼あが

たしくも志は深され守生くあふもな

いよ高遠小遠く聞ゆれ其宮より

云ハ藤原丹繩長くはあて下せと宮より

里で清まるなりはると知る藤原小多

緒びて緒結くそれくと下

と云 皇朝七十代の後までも

の橋のてくみく橋を結く大蔵連を

完一本を架て是と兼養めて編道の

今この御所村に宗紙のいとゆる

菌系

今この御所村に宗紙のいとゆる吳法信濃の園開ふありとい

下

全系

新古

後推選

これより一説は真田のれく小ありて十の系

かりと今ると依のさうせよなりと

なつきに指やのこれありれふその系とおきよなり

そはそくや伏屋小生るそは本の育といふくまね君哉

ゆうとてせあれも何れ先常本の五せけつり

伏屋里 藤原の仲にある回屋をいふま

或云法が小家なり雲のた先より

其地は後む山の下に小家成造り

と引て伏屋をその系は藤原の

古昔有家 武人之倭文幡乃帶

妻問為家 武勝壯鹿乃云

又庵八燦ぬせ屋のせれい

てらて地ぬらふせつれぬ

第本 藤原の小深内路の意より

たつき本をいふていふ

はあつりい坂城たうけり

源林と勢蔵本天を利を平

山のうちらにたと小

幸あれどと種と

て

或人かたりけるハ一とせ受領小く入く山小谷とつて幸有る一ふ
 ひつもの巨樹あり谷より教丈出く上る石積よそさみ立りまこ
 又作本せたり並で橋と高し中死樹るれば谷とあては小洞と
 たてあつて谷を隠れ本とつてとせは幸いささだちるま
 兼好法師菴 住し今其遺跡ありとふん兼好家集云本谷の作坂小
 猿中音使通る今其遺跡ありとふん兼好家集云本谷の作坂小
 通して今又記して猿屋をせしむ
 鎌倉街道 今其遺跡ありとふん兼好家集云本谷の作坂小
 の遺跡ありとふん兼好家集云本谷の作坂小
 復通る中谷山氏とつて者あり濃州遠山の莊を領は
 附鎌倉將軍の代るれをけ通る鎌倉へ通る又甲州武田は
 濃州河を渡り
 濃州河を渡り

馬籠

妻後中二里駅中南北三町
 其好民居山中に散在は

皂鵬巖 駅の西山上小あり其好皂鵬の岩小集るる一
 故小名と信矣二州まん嶽なり
 下阪川 駅中流湯船渡小川なり
 下阪川 熊野権現祠 俱小駅中
 永昌寺 源宗西沢山と号に
 級後長福寺小属也

丸山城趾 駅の西小あり丸山中竹以又駅の南小岩山とつてあり交と
 合戦場とつて本谷家傳云備後守家村西聖田之馬
 此小三の岩と築く

波蕪路 此れその一方なり
 檜馬路 山津坂等在詠多し
 千載 ねそろや本谷はけちの丸本橋をさるば小谷をたれ
 本賊うたそその河さたぬ袖ぬきてみるぬ病も中と教危

後法橋 中くふひもとせして信法を教本谷の橋はけちやふせ
 後法橋 生ひさう谷の指瓜もて中くちぬ花む本谷はけち
 後法橋 分ち本谷の橋たえく小谷を急ぬけ峯中志う云
 新法橋 雲もると下にさふけはのけうふ言は本谷の中をら
 新法橋 今 了も本谷の橋はあふ流志うてや月のと後らあ

家集 是む月のうけ小さつる山人のいてはあはれ孝のうけし
 本曾川 街及の左小流大河めて川中の石
 夫本 足せとやかい信法の本谷流河君と思ひの流さつて

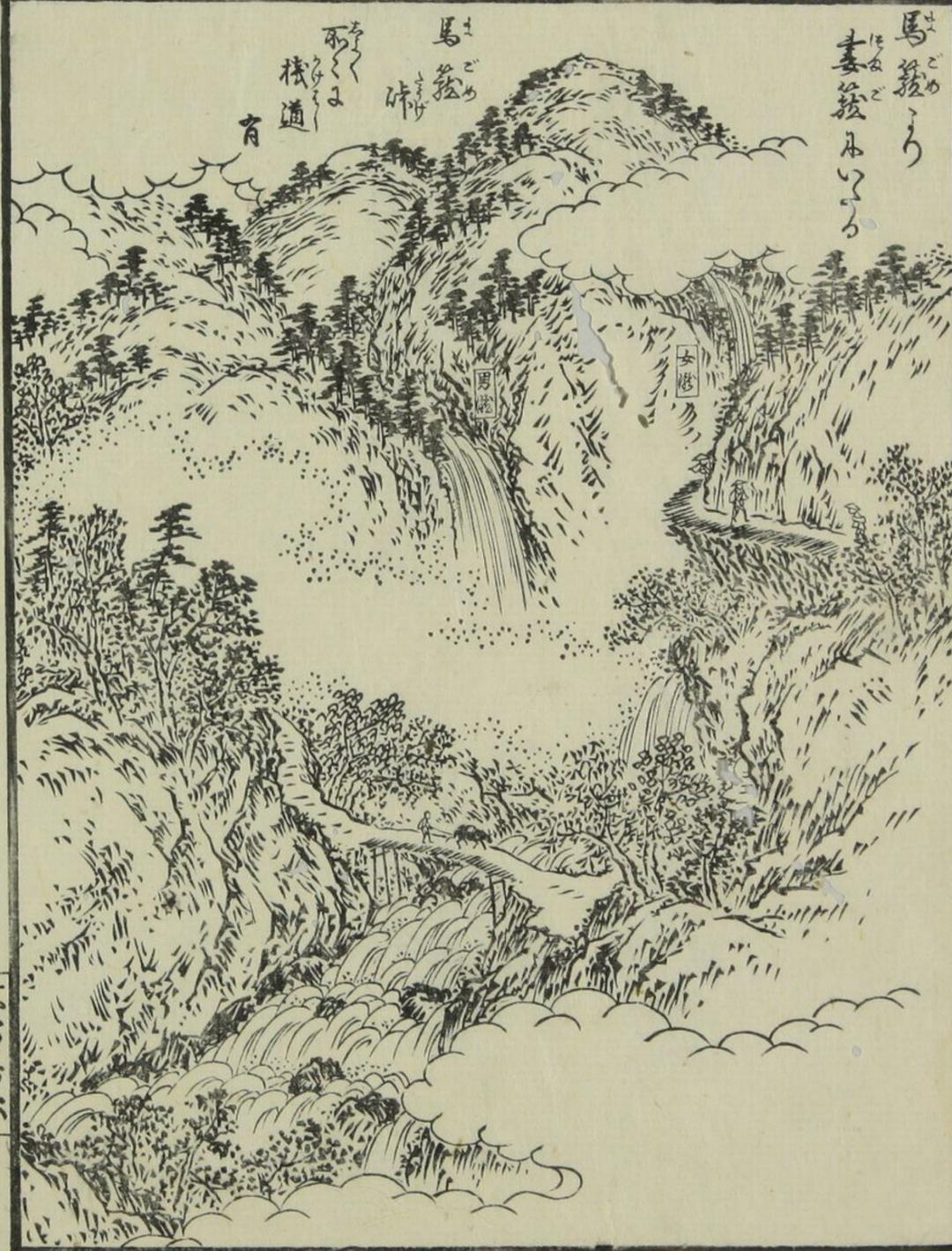
空仁法陣 寂蓮法師 源頼光 後鳥羽院 宮内卿 後系橋抄 源頼実 左大臣 頼阿 從二位 行家卿

從開關仙秦丁力
 棧道斜通騎空奔
 峯秀蛇繞踏曉霧
 樹深鷓鴣泣霜天
 猿肩不掃分軍夕
 驥足欲馳陷澤幸
 楚老何圖當日事
 采薇一曲隔風煙

霍山烟雉籠



馬發まはり
 妻發つまはり
 妻發つまはり

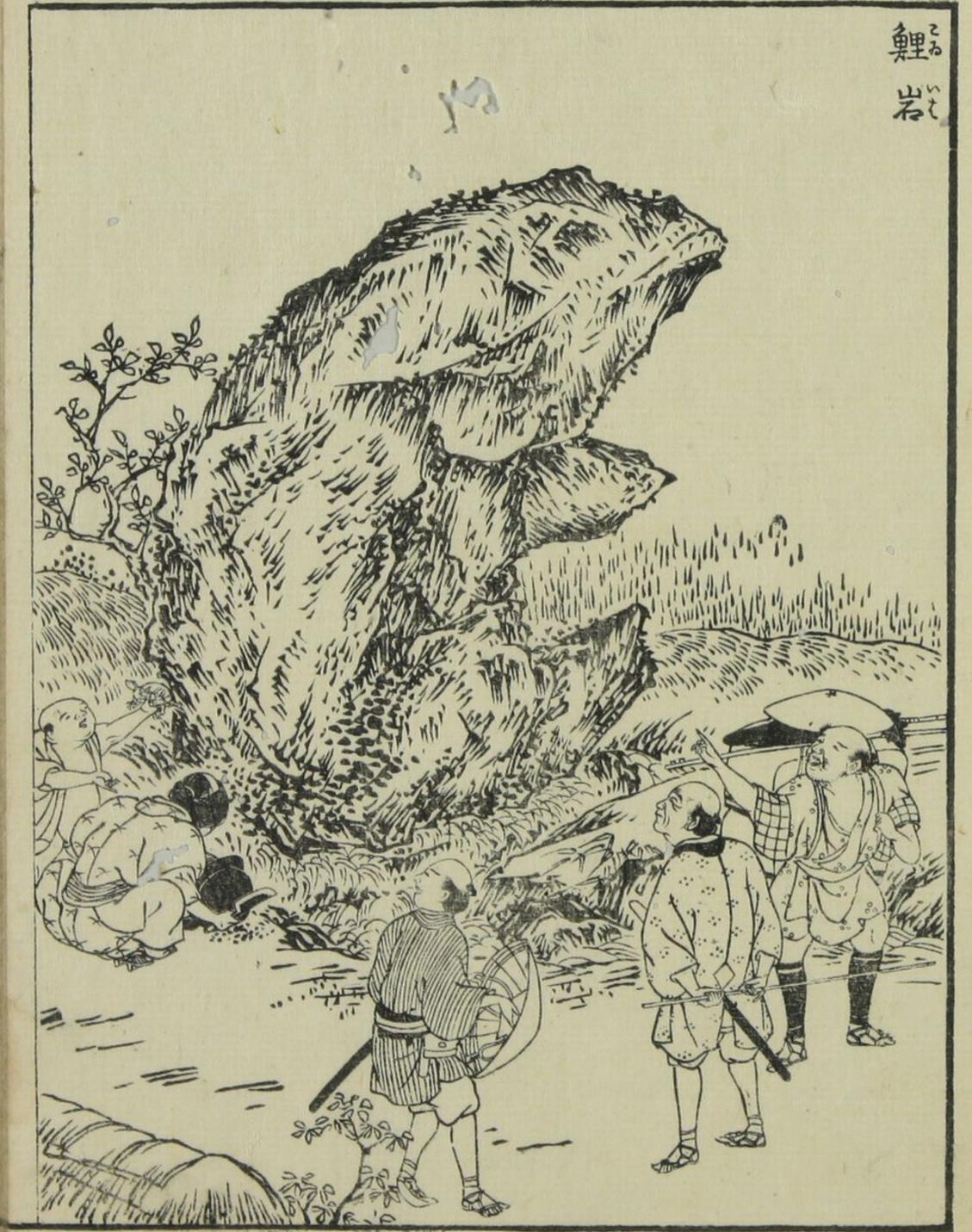


木下二六

信濃妻籠

三留野までを里半駅中南小三町相對して巷成り
 其作と山間小民居多し本為路と安曇郡なり初は信濃
 と山國より階坂多ければ一と科野と書れば國東の上野
 南ハ甲斐遠江三河ハ豊越後越中飛騨西ハ美濃之凡八ヶ國
 本藩分國の北と東と確井峠より西ハ美濃湯田
 道程は十七里
 本為路山中 谷中せぬ少少田畑まれば村里少し一茶大豆を
 産根石を産石ありて風をぬき耕りて粟黍粟稷あり
 少少登りて我まとも松竹を信濃ハ竹と粟の本ちあり
 用も我中梅の種ハ松の本用も葉と他國より粟黍又蜜梅
 乳柑金橋本練本饅ふり種も寒氣ふりなり六月
 熟し山中ハ梅多し山も桃紅梅あり三月末頃一時
 小花開く又は園ハ松と冬ハ葉こくを落す夏本
 松ありられを落葉松と云ふ
 雌雄瀑布 駅の南の側ハあり雄ハ左ハあり
 大妻籠 駅の南路上
 牛頭天王 駅中ハあり一村生上神と云ふ其外神明祠
 頼宮祠八王子祠俱ハ村民祭る

鯉岩



妻籠古城

馭の東にあり城址現在天正十年本曾義昌之將を築いて

山村良勝攻めて小居とむ同十二年秀吉本曾義昌を命じて
伊奈路を禦く義昌兵攻良勝小増して妻籠城本籠の時小伊奈
郡主菅沼小大膳諏訪保科を兵を合せ本曾と就人欲以志本蘭の
岩を抜く妻籠城と攻る良勝士率本曾とて鳥銃を放ちこれを防ぐ
修永軍登る夏を得て退ひて遠巻りて且水道城割城中水毎して
白米をよめり馬込洗ふ城に水沢山より城壁して抜屋
かたて軍と退けし伊奈は小居が良勝伏兵攻設けしこと討川
士率死む者多し若治大子敗走れ廿二良勝の功城責れ

鯉巖

妻籠のふらふらあり

烏帽子巖

形似烏帽子あり

兎巖

右小嶽ふらふら

風越山

飯田の西あり妻籠小入る伊奈と通る所あり

本曾二ノ八

千載

詞花

夫木

新六

千五百

風あけ吹ゆよえらねの耐高ゆりや佳雲の底ふらふら

信補

風越の家は久しみて見ゆるをさしこれ物も非あり乃れ

若原家経

手向もむきひさゆりや風越のまき野の尾花種小出小意

源頭仲

こふては月をえりてさしこふ電吹てあね風越のまき

為家

さうもむららの禁よ候にの米向ふささし風あけ此峯

公徳

古本曾嶺

飯田界あり

捨樹澤

文二年三月十三日霽歴して焚毀をこれ小居より村

三箇野

濃 聖屍中や二里守駅中南北二町好相対して巷城より本曾路を

みか山

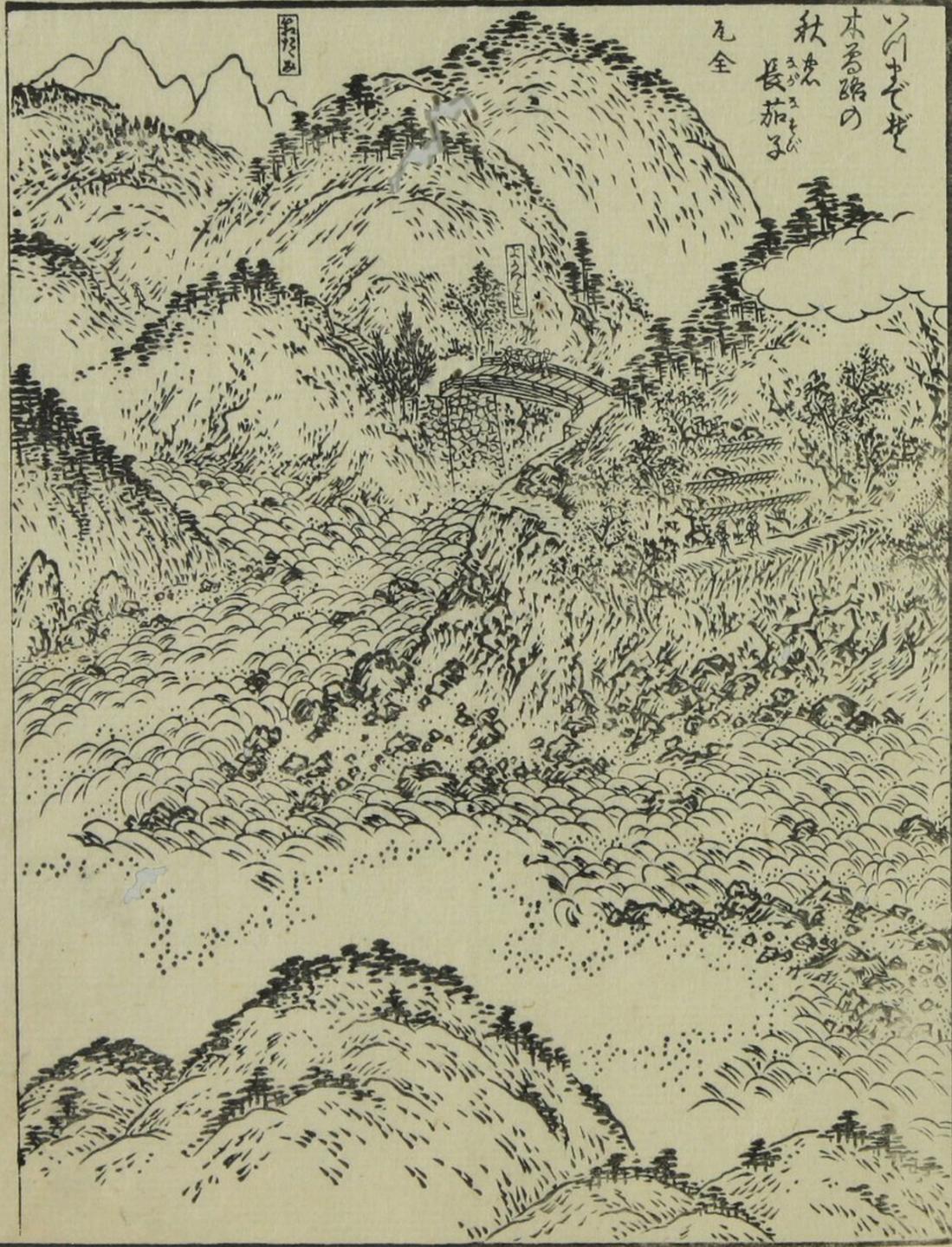
中なり名ありわ源山山若山と岨はこみ小居より路あり

統中

三留聖より聖屍中での間をわたりて道ありけ間左を殺十回

源

本曾川よ路の狭き所を本と伏けしこく是へあぐりあり



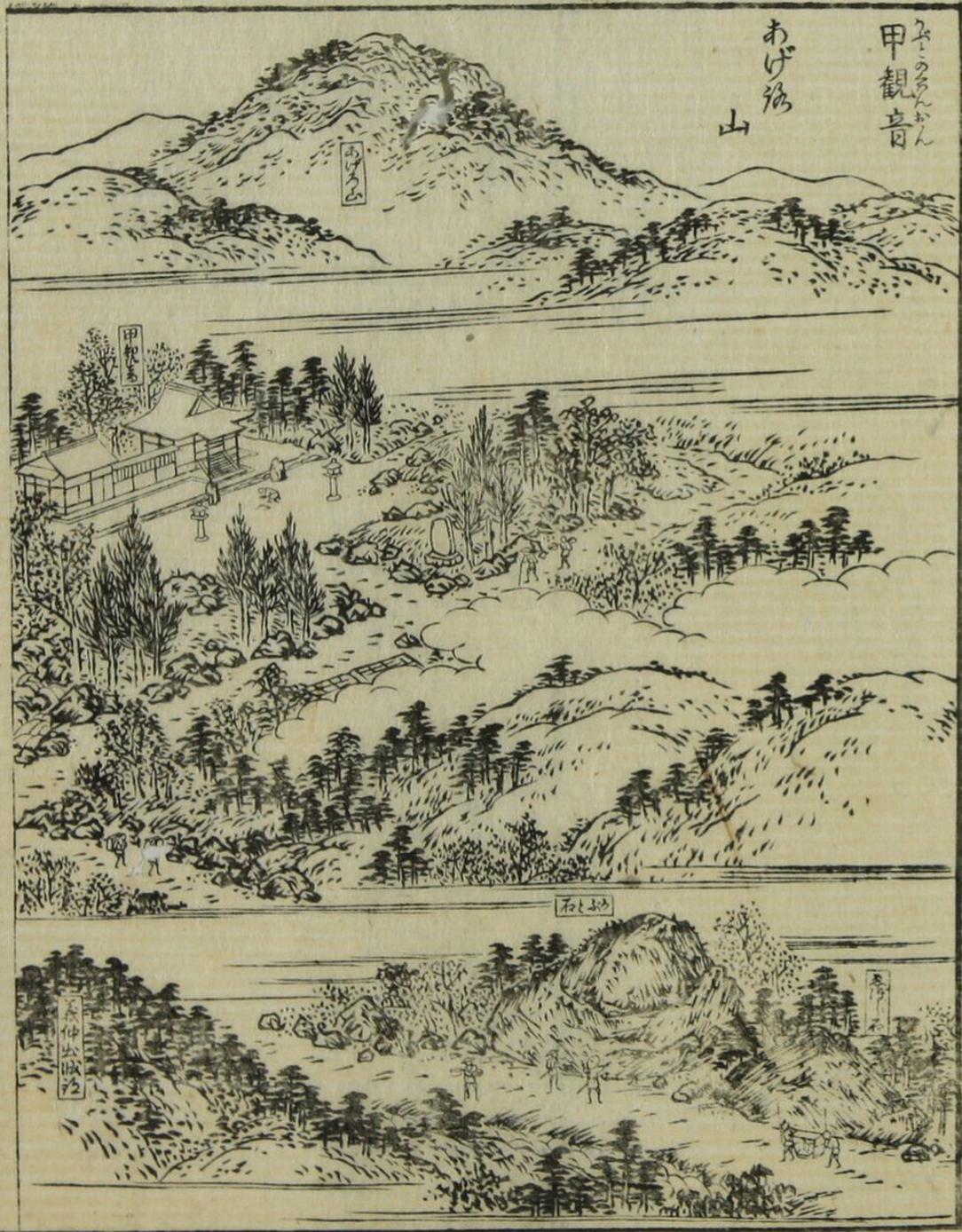
山を登りて
 本居路の
 秋
 長茄子
 瓦全

山



三富堂より
 のり
 聖虎すそ
 船く嶮
 路
 抜道
 多
 新法拾
 雲も
 下に
 うひ
 ける
 本居の
 山
 深頼具

山



かつ免街道は狭きを補ふ右と左の山を屏風状に立てたためして
 其の中へ奈大巖の切を遮ふ此る不接なる一は是も川の上
 にけりふ橋ありあはれ碓道の終る所なりけりたる橋あり他國ふ
 くるかかひは移り山の尾崎狐鳥の岩口へ入る先の中
 尾崎狐鳥の所なり其若道は横つて溪川の流る本若川小落合
 所なりこれ水々なる橋されあやうれ事甚しは間中橋とる所
 其向ひ小垣友との所も河り其而り溪川一流来りて雙方の
 に丈岩あり其系なり

園原生の碑 神戸の東にあり天明三年これを建ふ
 牧澤橋 横川戸橋 羅天橋 いづれも樹樹

伊勢山 伊勢の西小川あり河を隔りて里説云天正十年
 奈岐嶺 嶺の東にあり又一名比治と云ふ山小入る本と云ふ
 揚麓山 神戸の西にあり山徑峻険人登る難し其の近所小密ありは中

廣さ敷十歩其内山式三丈の平石ありて其山麓の石座と
之傍に石砌の山麓の端曲み声をあげ海の面せし山をさるる
牛頭天王祠 住吉祠 白山権現祠 若宮祠 劍祠 熊野権現祠
俱小三安聖小

等覺寺 三安聖小あり曹洞宗日晃山と号し信明松本全久院小属し
大雲和尚を創し取

観音堂 神戶の観音と稱し馬頭観音安ん村民香火を捧ぐむし
本尊義昌永樂儀三百貫文を寄附し今小證状有て是を證す

岩戸観音 千の石の岩に安ん
名産和合酒 本郷の岩中酒に酒ふし和合の里人より先く酒を造る

三富野 馬のあし一の阜山あり信明松本城山より本郷義仲の子孫
本中將軍軍尊氏小属し武功

本曾古道 徳州赤坂の馬より岩勢聖成歴く鶴沼小山牧野野上
細目久田見経川高山福呂坂幸小なるこれふ徳州小属

三富聖より屋小坂羅天坂をこえく清水村みりるは間世町
起其古道よりいづきの代小り聖易しなるなる人

許あり皆ふけむ中極村城をて尾城の農家にあり十二極村

あり駒ヶ嶽解小見也内口時雲城峯に載きて同色斜あぐはうと
坂をこえく芝山下左家より聖尻の駅みりる

野尻 須原までを里三十町は駅いり一里路里書以駅中
東西五町好相對して巷城あり其好山間小散在

飯盛山 飯盛を盛るる
本郷大河 三安聖の東よりろろ城色く上松小なる水流奔

騰して其聲雷霆の如く大雨の時水漲りて畏るべし
牛頭天王 鹿島祠 白山権現祠 住吉祠 諏訪祠 俱小村民

妙覺寺 須原中あり藤原宗法雲山と号し
野路里右馬助家益家 年長とある文禄元年豊太岡檢地の時石河備

本郷彦左衛門致春 喬小益原の族人行り園凍本郷ありて氏とん
其子孫歴代里層とある家小古甲曹乃氏

太刀一柄あり長サ三尺三寸許極免く奇化なり

野路里館 駅の南にあり今城山といふある時古蹟一帯を鑿得る

長野 東山道の中にあり駅決非に

今井四郎兼平城 其麓に古園門の址あり里人にこれを園山といふ

本曾殿館 長野にあり下馬及び鷹の場等の遺址あり本曾家

其頃小園を設け英徳を防ぎと見え

本居に遺蹟あり里人云本居殿が小園に至り福徳

花城堂と云ふ其地を去るべ又一岩あり幕岩と云里民云本居殿

弓矢八幡宮 弓矢村小あり本居

貴船祠 俱小祠古氏を掌つ天正十八年

出雲明神祠 其頃須原親公房あり例祭八月十五日

阿弥陀堂 出雲の境内にあり

天長院 長聖小あり隆海宗地之と号し須原親公房あり

跋小大應二十三年 永正十八年等の文字有

辨財天森 本居川の

阿満橋 橋本居川小繁に長七間半

磐出観音 須原親公房あり

院 院の宿成をく左小本居の大河を思く長野村の天長

院 院の宿成をく左小本居の大河を思く長野村の天長

院 院の宿成をく左小本居の大河を思く長野村の天長

院 院の宿成をく左小本居の大河を思く長野村の天長

院 院の宿成をく左小本居の大河を思く長野村の天長

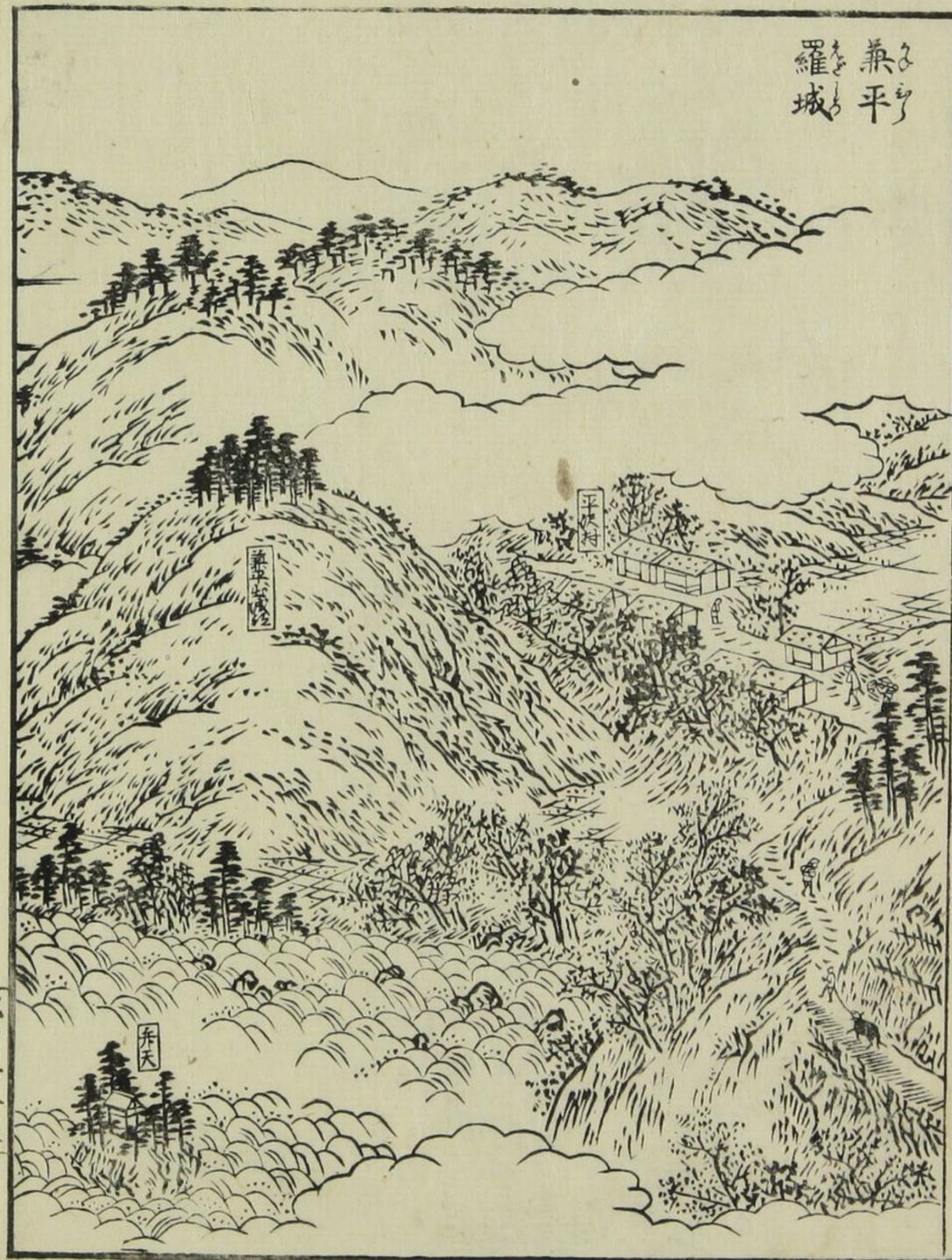
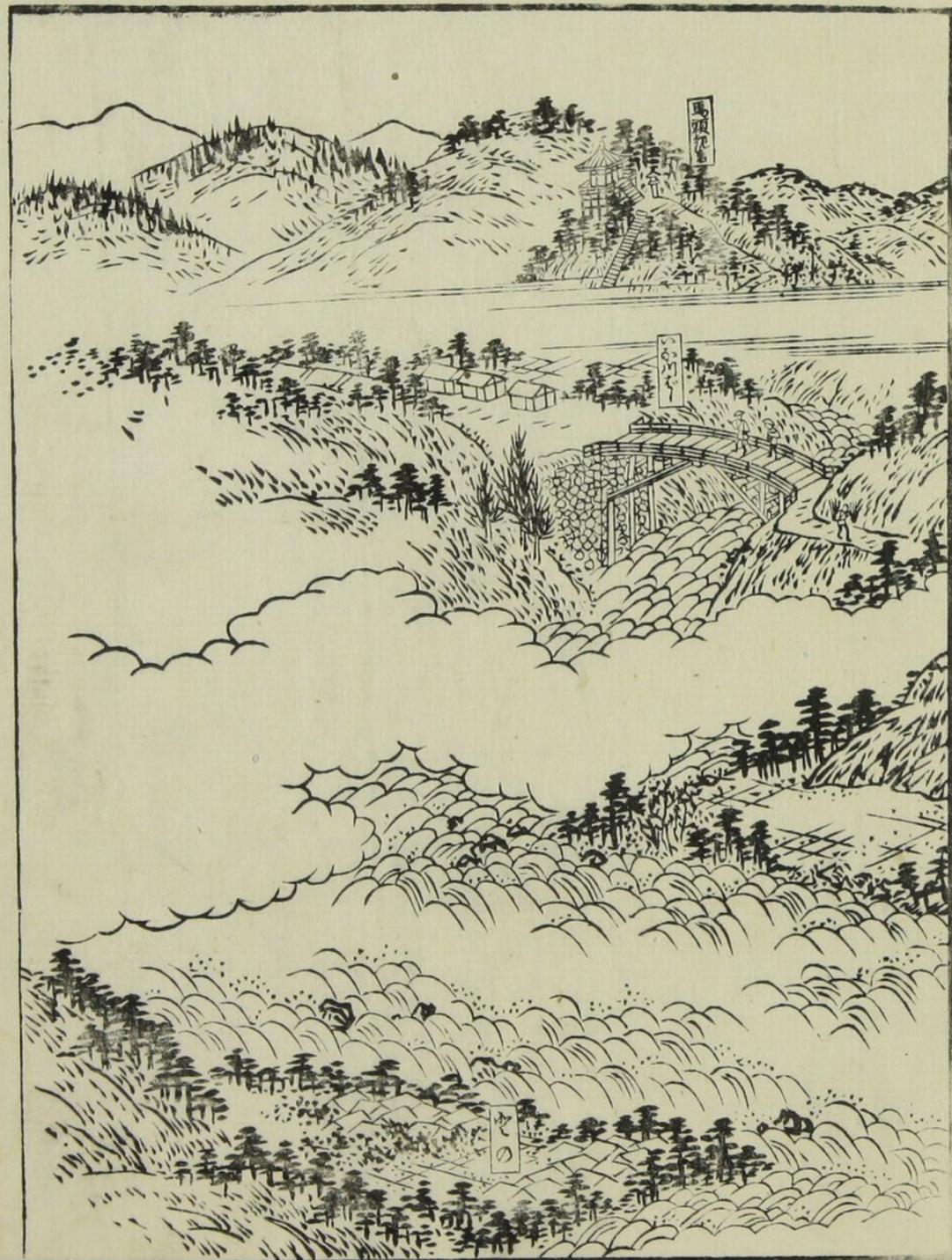
院 院の宿成をく左小本居の大河を思く長野村の天長

須原

上松まで二里九町東山道駅次たり東西四町好お對して巻

伊奈川橋 三重中間大水中繁に最壯觀なり後世石を巻く崖に

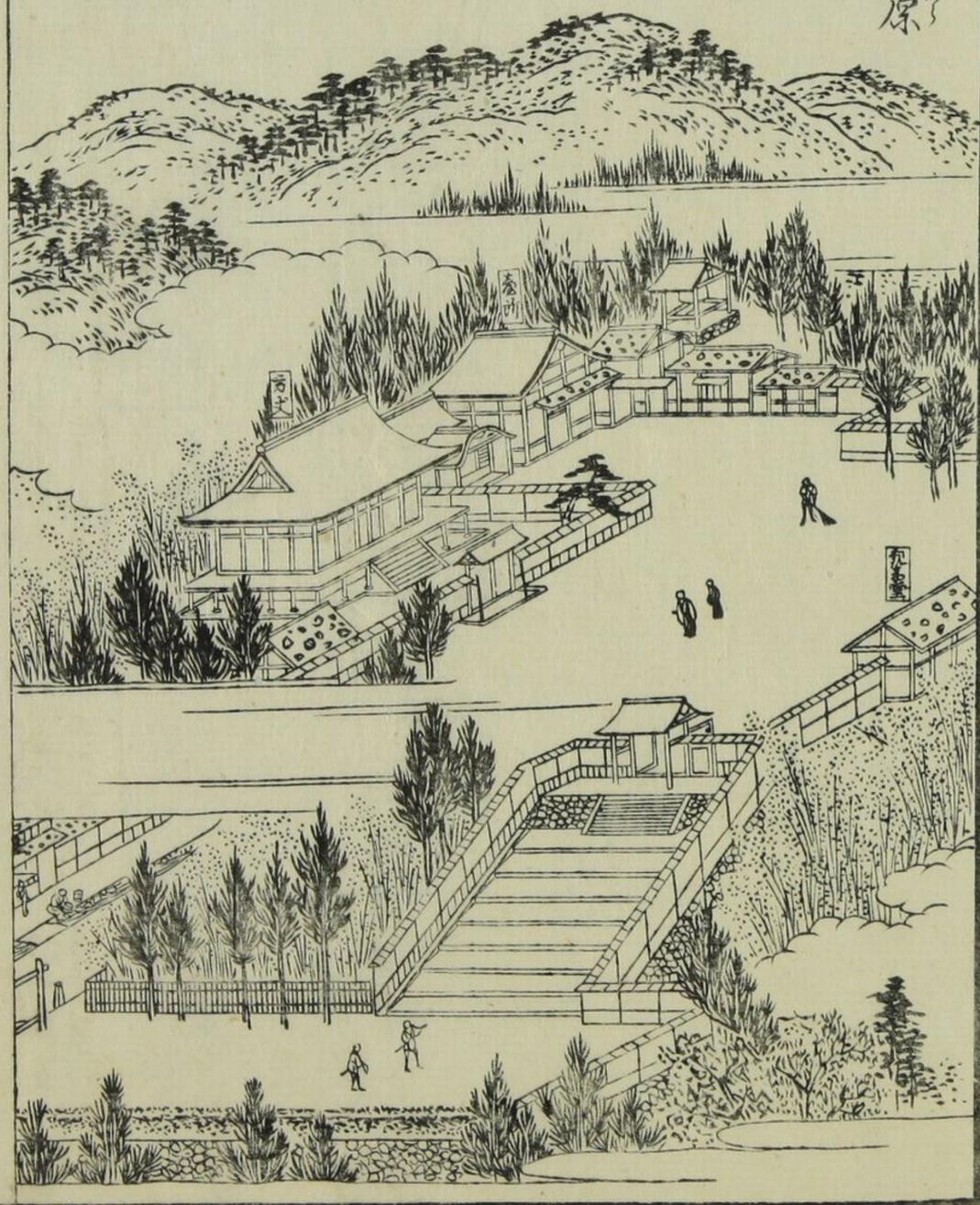
浄戒山定勝禪寺 須原の西にあり



兼平
羅城

寺勝定

須原



本尊釋迦佛
 十王堂
 鐘樓
 鐘銘曰

山色登樓詩興濃
 千鈎大器響珍重
 群生試聽斜窓曉
 醒夢聲聲百八鐘

天文十八癸酉玉林聖贊誌

遊年任持慧章其鐘の破壊を補く大陸法務

董思恭畫一釋迦
 唐墨梅一釋迦
 唐出山一釋迦
 唐漢樵二問答圖一幅
 古龍虎二幅
 左京大夫親豐之肖像
 太鼓京太夫義清寄附
 其存尚多くも畧ん

寺俗云天正十年本寺義昌濃州をうけと
 義昌が維子愛若軍にまゝにうけと
 古のいし寺に寄附其画大幅なるを

普賢の像三幅
 仙人の像三幅
 鉢の圖あり

左京大夫親豐墓 寺内あり墓上あり大樹の榎あり
 鹿島祠 これをををり

須原をゆく小沢ひく大洲村あり本若川大洲あり其流を
 幸とれど松ひく本むく多六溪川より流れありて橋あり南む
 番場村ありにも溪川の橋あり津屋倉幸三所あり茶店あり
 立場あり宮の堂村あり村をゆく萩原にゆく

小野瀧 小野村の右の路傍あり
高三丈許直下本若川に落ち

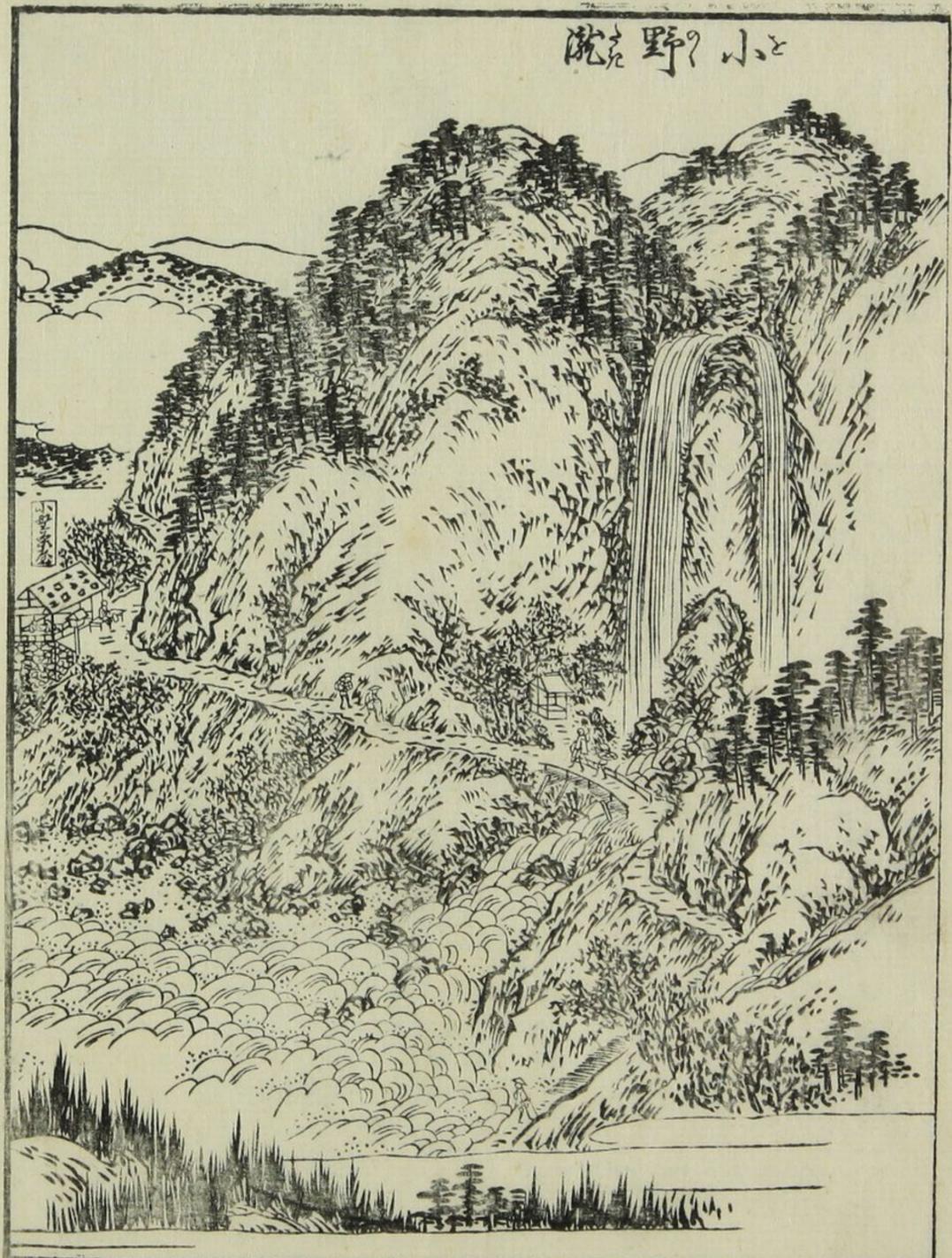
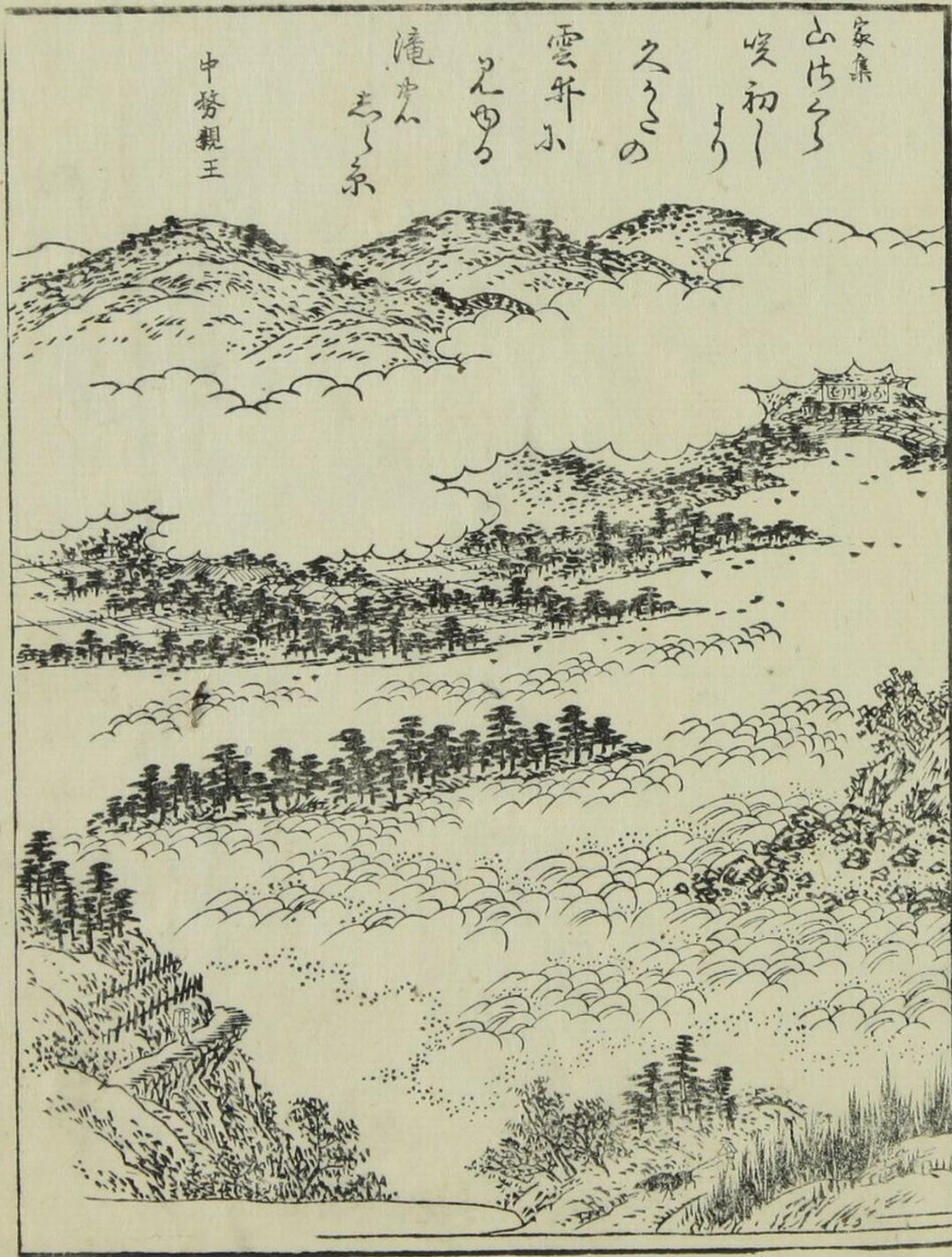
は瀑布泉と山洞より岩をけし只市坊はせれがく落ふ
 傍小石像の不動尊ありまは細川玄吉の老の本若越より死す
 小本若路の小聖庵中より布引箕面をどぬも母とくどわ
 やいさゆこれ程の物乃此國の奇松ありつふそりしるせやと書
 且つかり真水雲花と素練取れ石小噴びと明珠と散れ
 とくは所の幸とるる

ふ先川橋 本若川にあり長十五間南より本若川に
中本橋ありは急瀬小急流あり
 寢覚山臨川寺 寢覚山あり本若川に
秘傳妙心寺

本尊釋迦佛 同山法山和尚
 辨財天祠 方丈の末にあり尾州第四代
園覺院及中庭にあり
 木曾八景
 寢覺夜雨 棧道朝霞
 小野瀑布 德音晚鐘
 駒嶽夕照 衡川秋月
 御嶽暮雪 風越晴嵐

寢覺林 縁ありれ葉ありて其間より隙ありて其方丈の庭中
より直下に見お後本若川の一眺あり

寢覺の床を隙川寺の茶裁のこころ岩間を流してゆく
 みちあり其道これとけり宿と先の床と本若川の汀と
 あり文若ありて榎と十間長四十間をうり育こ本若川あり
 ひと狭き所なれを凝りてこふさ水の水のさぬ目もろけぬ
 地を流さもけりてそは流さぬ水もろけぬ



巖ありて河小隙あり高たると海ありやうふ内祠ありま
巖天をひく 卑さ平ある所成りたる麻とらふ其岩園の如くあるは
幾許せいのをさるひ其うへに始平あり又飛ぐれうこの河系の中
りて大石あり水ありはるる本岩川流る霞堂の麻中大巖あり
方本岩川よのぞんくそ石岸屏風をたてたがぶとくへい
大巖あり支岸の間ありわづ二間ありひま二間ありあり
ふ賊も綱をうけては河流通ふとせ支岩の下の所長又十間
許あり上の水も流るの岩を上層岩中より河中に板石として
石有川むらひの大岩のうへに三つ穴あり一の穴あり大釜とらふ二の
小釜と小釜とらふむらひ小屏風岩とく屏風をたてたがぶとくあり
其下なる岩ありとて雲たぐりか屏風あり又云はく岩とて鳥帽
子も似たる岩あり其あふ河のこけら小平岩あり其うへ小龍岩有平岩
のうへ小巖岩有其巖岩は巖とらふ又川むらひの岩とらふ檜板梅松

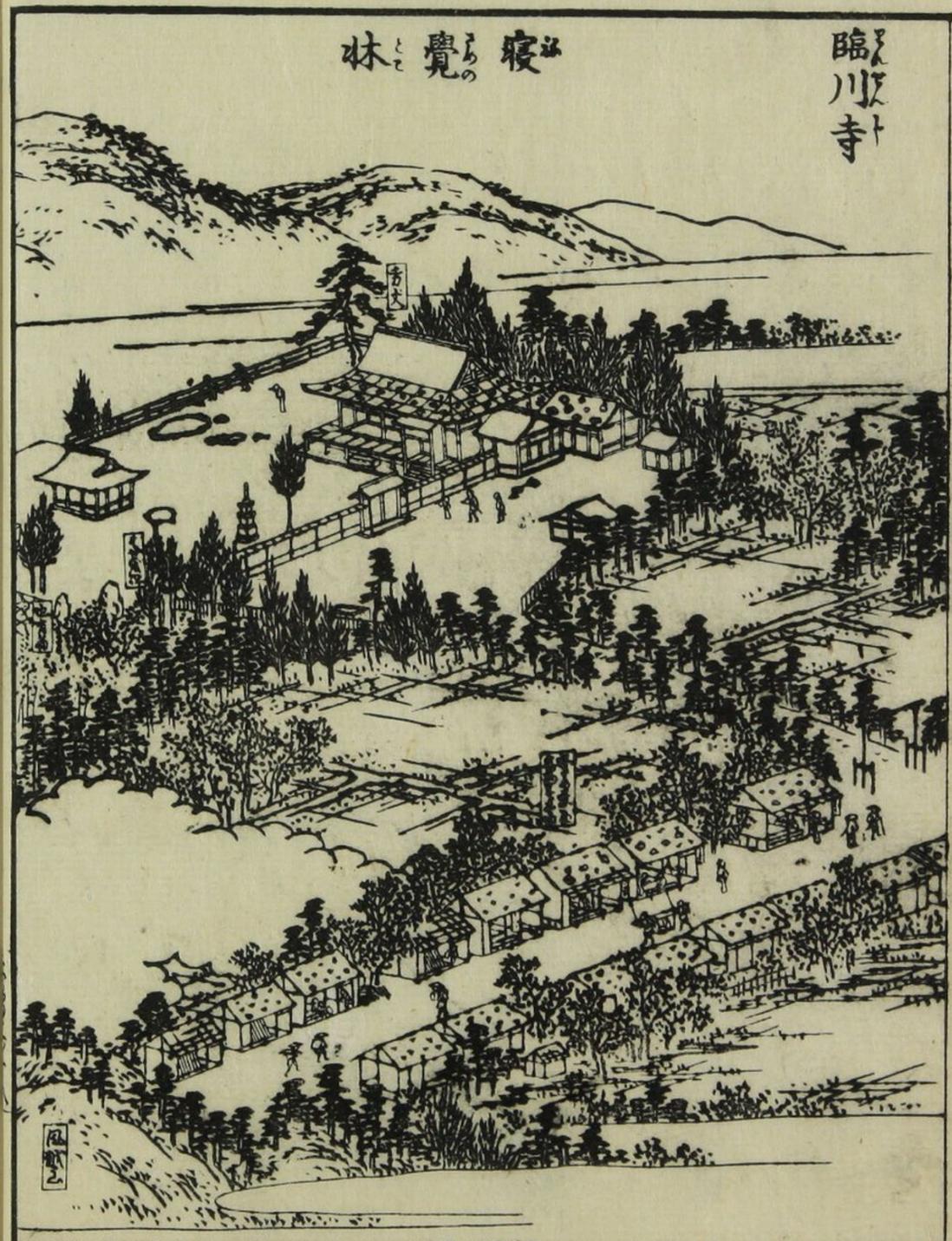
ふど志げりてくう歌うへは地と地竹の勝まると風系にもこえく
奇妙の風をたうへはしを飛虎幸むと云ふくく去来も迷はじ
この書浦ありゆたされ一とらふ小信説あり浦あり幸ひ日本紀
雄畧帝の條又と枝桑畧記本身之れとて地小をり一其のふど
されはは本岩海道中の名所ありて此街道はけうへにすけふ
立寄さぶらぬ飛雲とらふ龍曲り本岩れ山中や二懸聖なる
山伏ありたるの小窟ひする半成作より遊る書小見へは持はれ
かうとらひひあうとらふ一其勝あり

な小河のまふ巖もはるく霞堂の麻と霞堂はらん
山里も麻もはる麻乃さひとらふとらふとらふとらふとらふ
岩の松ありて霞堂ならわ麻の麻とらふ麻とらふとらふとらふ
登りぬり登麻せうその麻中
寢覺仙林巖縫間碧滯鳴玉白雲開
晴曙欲問當時跡頼遇邨翁採藥還

近湯修政
前無云
幽山
鶴山
とせ瓜
吉田
植田義方



岩
 登
 あり
 林
 あり
 月
 あ
 籬
 島



臨
 川
 寺
 寝
 覺
 林

獸類皮店 本名の山中は色々

本名の山中は色々
はつ朝陽はる小禁の皮麻の草猪を皮貂鼠の皮ひあひあ禁の
爪百の松花牙など多く知くく種を法家店所くあありは色々
稱呼朝山夕山本特獲くこれを製しあふ出れるりゆきう人
これ試求く本名の名産とい禁を六雄將軍の瑞も重くく
多くの華店茶にけるるも又喜も小い也

觀音堂 建今小香火
阿彌陀堂 親聖對人第一世如信上人の画を所
氣比洞 鹿島洞 神明洞 德源氏製所

三飯廻翁閑居 三飯村 け人中むく 弘治年中此人ありて世業と厥ひ
は本名の山中に居く不老の薬人ふふ其頃の名醫なり
あふれたる山中奥深く入る茶と証これを製し茶味を調ふ
世よ三帰せらる謠曲もけ人を世の良方の名母よと愛小若ん

- 和極集上下 ○新撰之方 ○小兒諸門
- 當流大成捷徑度印可集
- 啓迪菴日用灸法 ○治肺氣通藥之部
- 諸藥勢揃藥組之方并諸療
- 當流依門下學主懇求 ○辨證配劑

合九卷

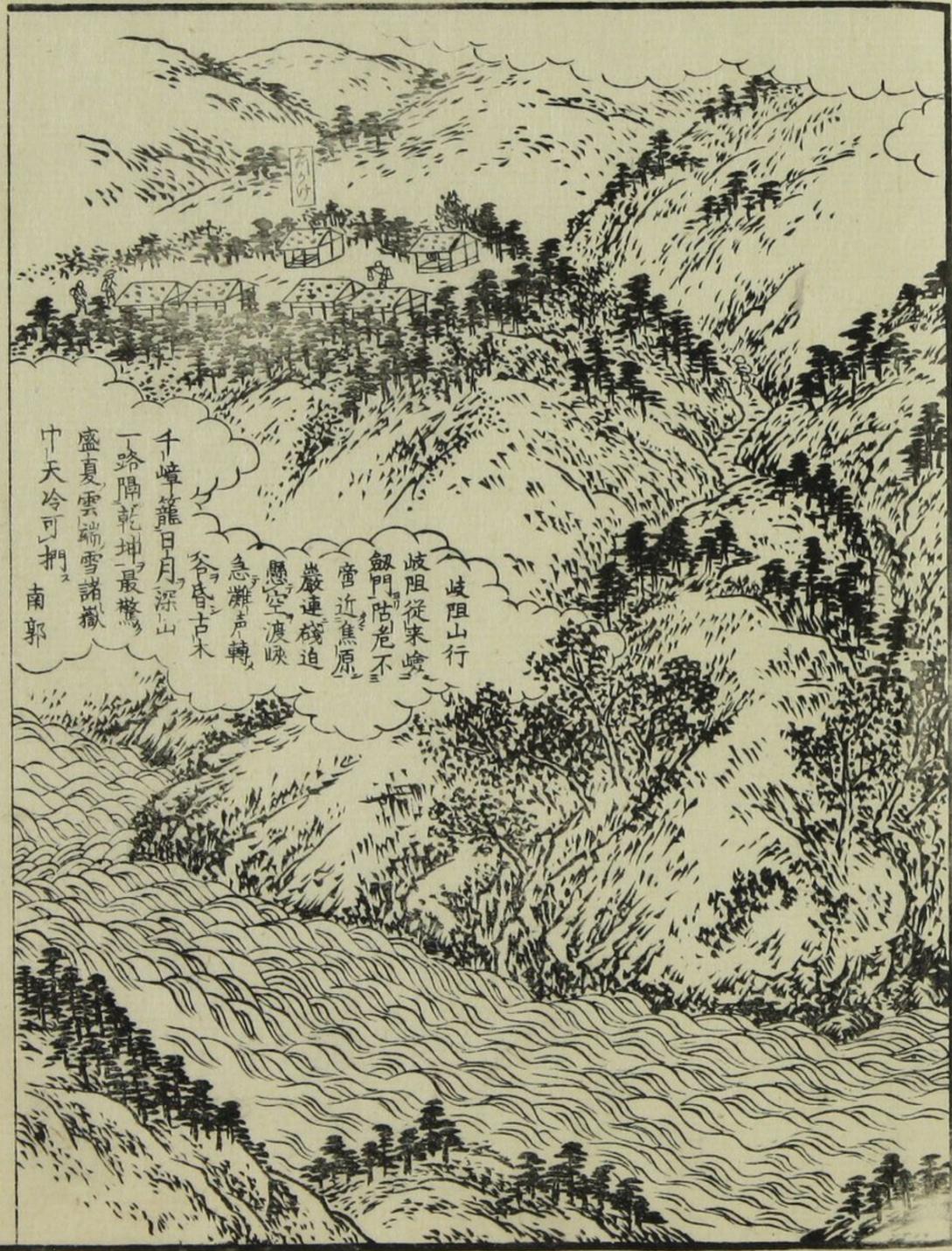
弘治第二丙辰十一月十九日夜組之

信濃 上松

福清まで二里半 駒中 南小立所 相築して菴坊あり其俗山
間小教室して住居はけ 駒都會の地あり商人多し 繁昌す
地あり 駒の小は新築屋とあり 終式三家あり 葎餅を齋とて

名物とん

本曾棧 齋跡 駒路の中にあのいあへん 山路険難ありて 旅人丈小若む
有司 小舎とて 左右より 石坂を敷十丈 築上棧屋と隆れ



岐阻山行
 岐阻從來峻
 劔門陪危不
 管近焦原
 巖連棧迫
 懸空渡峽
 急灘戶轉
 谷昏古木
 千嶂籠日月深山
 一路隔乾坤最驚
 盛夏雲端雪諸嶽
 中天冷可捫南郭



上松より
 福島の同小
 枝乃の旧跡あり
 むのの上の
 山は御道
 りりて
 枝を木の頭
 枝を木の頭
 後世今の如く石を後
 橋も短く儉
 かし

今世未安根より此を破許橋より長巻三間許柳巻
更かき橋下の石小落あり

此石垣慶安元戊子年六月良辰

成就焉畢

又寛保元年辛酉十月吉辰

御嶽川

級滝の下に石の方より別山大なる川流れ出る谷あり義永末
於より流るる本谷の幸谷よりなる多し

御嶽川の御嶽より其谷の奥山良材夥し福橋より其溪
の川上より十里許ありは河の流れ止めて材本多く出付は河上の方本

本谷此津をけりて馬が嶽より大なりと高き山あり西北小あり
けり小雲多き山あり予さ月の末に通るる小川雪多し富士

淡間ももうぬちなる河の端より道の右本津岳の香井あり幸溪川
を清くけ川形合されを合渡と名づくは所より津嶽見ゆそれ岐嶺の

山中に材本多き山ありよ及び檜檜松模榎多し杉もあ
擇らりてあり浮石は小川下へ流る事ありけり津をけり

真本特小多し又山中小も道の側山根の本多し大樹あり葉は朴
の本に似たり枝も多しとて此種より実ありと様子に似たり土民

これをとりて粉めく餅とて飯小宛く食用とを飢饉に多く
其本は横文ありて器物小可なりとも尾州君より伐ふ事と禁

制してそ終ゆ候は百姓民の食物小なるゆへなる材本を伐ふ
松人を尾州君より和泉紀伊近江の人を備へ遣ふる毎年春冬雪

消二三月山に入ると十月山を降り幾千百人と入幸以て伐去は山
入系松人まことのりなど持て毎日引もさへ上りより本谷下付は松

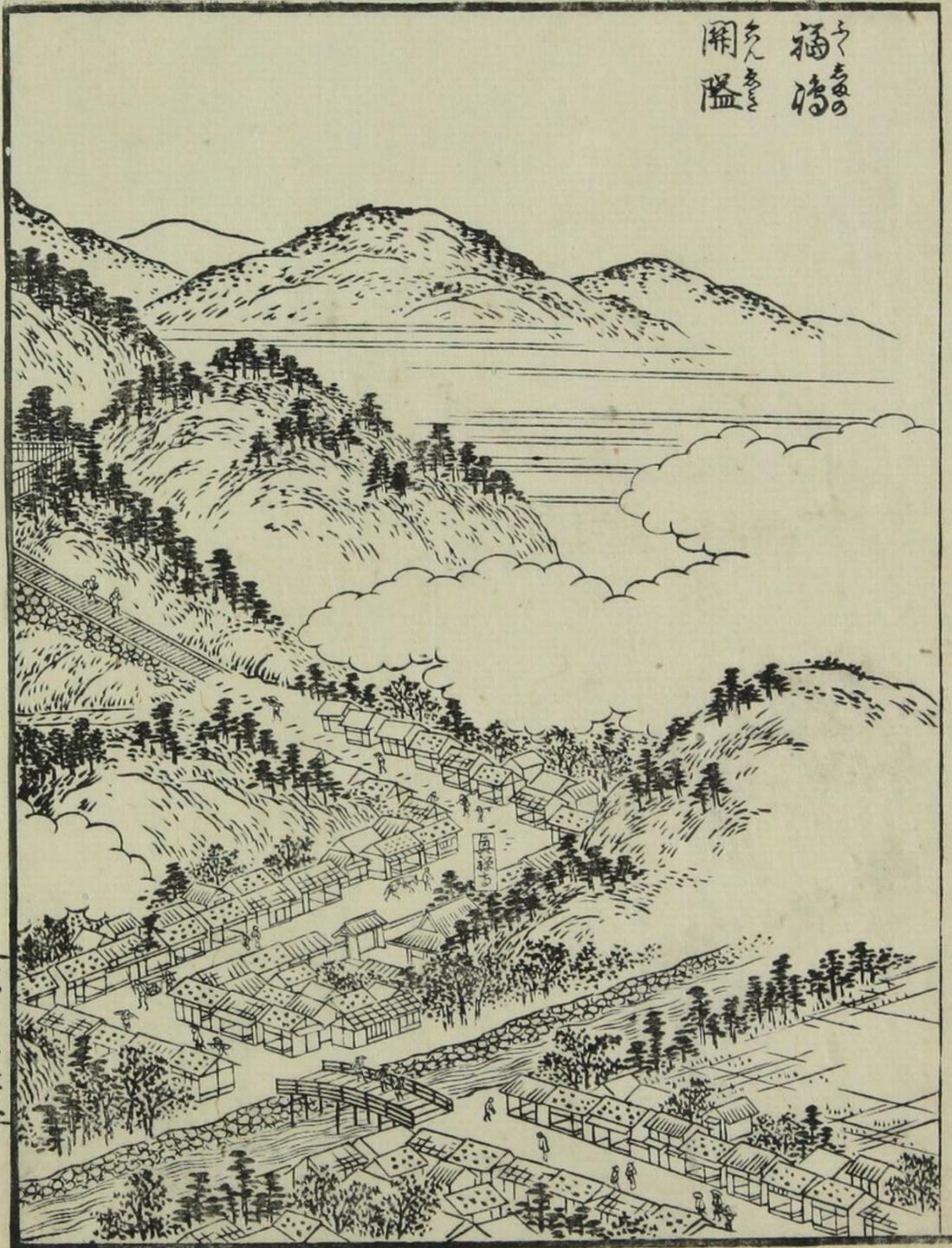
人とも山中の家を居候を本谷檜材本に削りあへは樽小つり
長に尺許あり小は本谷河へ流せはいつとも好くあ小随ひて流下ふ

河中の石小のりてありなる松小葉なるその末りて流せ
松よりくる水もく石高なれを通はは流るる本谷も本谷と色で

英法の内吉田の石里川上小綿織とつり所よりは石葉小大根と張て



福
開
隘



山村

髪、尾、云

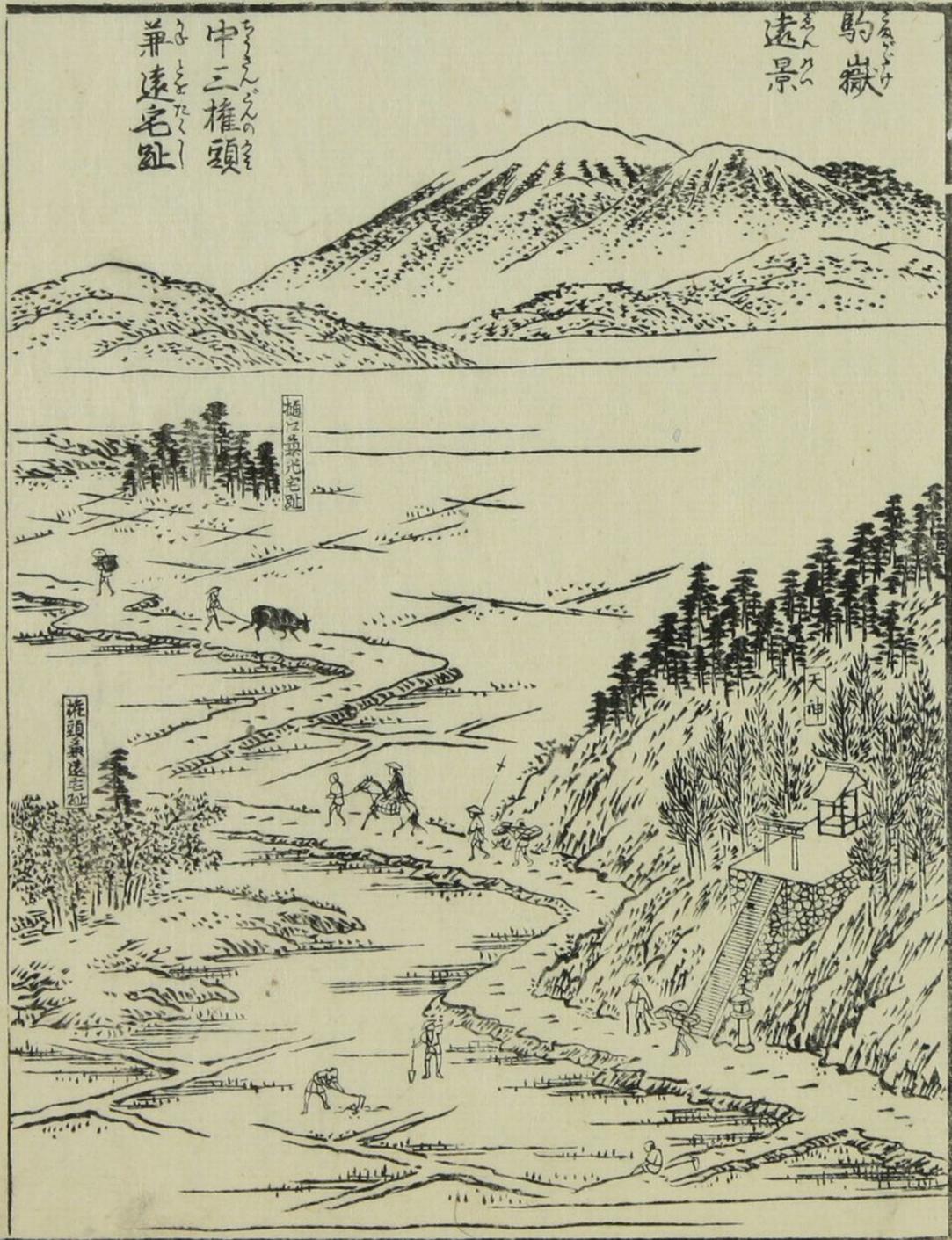
斯の如く旧記あるは、年諸州の軍卒、汝集之、駒嶽と圍ん、これを狩り、
 人せ思ふ、ひく、此右大將の旨士、乃牧狩、小徹、小登、一、や、餘、先、文、度、本、乃、よ
 所、其、年、の、六、月、明、智、光、秀、が、為、小、裁、口、其、事、秘、す、は、山、小、三、峯、あり
 三、つ、の、内、第一、小、高、れ、を、大、嶽、と、り、移、く、大、山、を、り、故、小、遠、方、より、鮮、小、見、也
 本、曾、山、の、中、なり、山、上、の、雪、六、月、土、用、の、末、に、消、く、八、月、小、又、積、り、駒、嶽、の
 麓、を、大、原、と、り、其、前、小、川、筋、あり、駒、嶽、より、流、り、水、が、ち、駒、嶽、が、嶽、れ
 山、脈、上、修、奈、宮、處、に、つ、る、は、奥、よ、今、村、と、り、あり、て、龍、廻、山、と、り、寺、あり
 寛、永、の、頃、飯、田、城、主、服、坂、辰、其、福、の、陣、を、小、止、宿、あり、て、殿、邑、の、八、岐、れ、森、へ
 狩、り、出、れ、駒、嶽、と、隱、見、く、詠、れ

尾も、志、海、一、頭、も、な、駒、嶽、か、ん、の、は、く、く、に、雪、の、く、や、さ、よ

中三権守兼遠家、
 駒嶽上田村のあり、今、田、圃、と、あり、其、林、中、に、
 殿、松、を、り、今、指、く、
 極、松、を、り、今、指、く、

本、卷、三、上、五

駒嶽 遠景



中三権頭
 兼遠宅址

極松宅址

洗頭兼遠宅址

治兼四年九月七日丙辰源氏木曾冠
 者義仲主者帶刀先生義賢二男也義
 賢者久壽二年八月於武藏國大倉館
 為鎌倉惡源太義平主被討亡于時義
 仲為三歲嬰兒也乳母中三權守兼
 遠懷之遁于信濃國令養育之成人之
 今武略稟性征平氏可興家之由有存
 念而前武衛於石橋已被始合戰之由
 達遠聞忽相加欲顯素意爰平氏方人
 有笠原平五頼直者今日相具軍士擬
 襲木曾木曾方人村山七郎義直并栗
 田寺別當大法師範覺等聞此事相逢
 于當國市原決勝負兩方合戰半日已

本卷三九六

暮然義直箭窮頗雌伏遣飛脚於木曾
 之陣告事由仍木曾率大軍競到之處
 頼直怖其威勢逃亡為城四郎長茂赴
 越後國云々

兼遠在信州本名の人なり姓中原故小本名中三と云々これより向小笠原
 生源義賢其兄也馬頭義朝を不和なり武蔵大森谷小笠原に遷る兼平
 こ種を殺さ義賢幼少あり駒王と云々後別當盛抱を負く信長
 仍兼遠小托以兼遠潛小書育して元服をさせ二郎義仲と云々治承三
 中平家上皇女有羽の許之小押菟高倉王義兵を起し向小笠原義仲王の
 令有城更々義兵を奉内兼遠これに輔佐を兼遠小三子あり新湯
 樋に二郎兼光今井四郎兼平落合五郎兼行みか本名殿小随従して
 武名あり又一女あり巴と云々頗強力あり

峠殿

上田村の民小笠原の者あり其宅あり今に新湯と
 飲むと見せし峠殿と稱して酒城を居せしと云々

映あつ村氏之小これ公野羽日將軍源義仲之に隠居し由

水精山 あり今に五金礦あり其地むりしり水精山又金礦を産

烽火嶺 本為川の西岸上あり福島の城山と相對し傳云本為殿

野婦池 百姓小娘に殺せられたる女を親に尋ねて見せしむるに

研犬谷 麻犬谷の西乃山にあり其地むりしり水精山又金礦を産

斬蛇潭 本為川の西岸あり相傳むりしり一農夫ありは

明星巖 本為川の西岸あり其地むりしり水精山又金礦を産

正八幡宮 里人云本為義仲は神前にして衣服をとりし

南宮祠 一村生之神

德音寺 本為義仲の牌を蔵む同奉朝日將軍本為義仲宣

本曾義仲城 本為義仲の東にあり里人其地と

家系と清和天皇七代の孫六條判官為義三男常刀先生義賢

惡源を義平弑して討平ぐむ義賢小三子あり其嫡子成仲家と

以源三位賴政妻とむり其次を義仲とす稚名を駒王と名

け父義賢害せし内村二葉齋藤別當定盛之孫成賢とて修列

信濃 官腰

教原中二里又官越くも書以駅中東西に町半相對

して巷を形を其好山同み教生に

本為義仲及比極は兼光今井兼平画像三幅あり

境内小業降堂 十五堂あり

家系と清和天皇七代の孫六條判官為義三男常刀先生義賢

惡源を義平弑して討平ぐむ義賢小三子あり其嫡子成仲家と

以源三位賴政妻とむり其次を義仲とす稚名を駒王と名

け父義賢害せし内村二葉齋藤別當定盛之孫成賢とて修列

本為義仲及比極は兼光今井兼平画像三幅あり

境内小業降堂 十五堂あり

家系と清和天皇七代の孫六條判官為義三男常刀先生義賢

惡源を義平弑して討平ぐむ義賢小三子あり其嫡子成仲家と

以源三位賴政妻とむり其次を義仲とす稚名を駒王と名

け父義賢害せし内村二葉齋藤別當定盛之孫成賢とて修列

本為義仲及比極は兼光今井兼平画像三幅あり

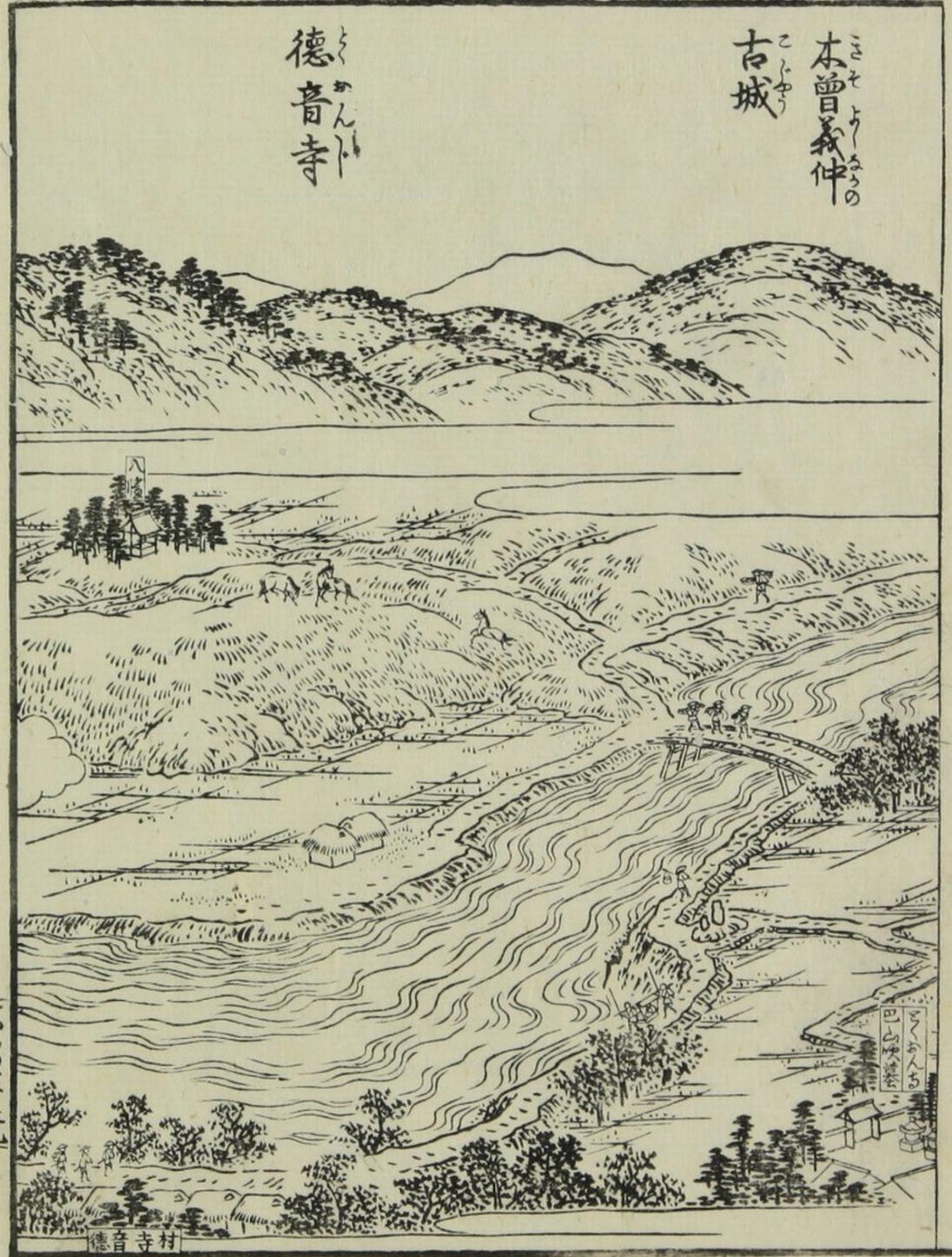
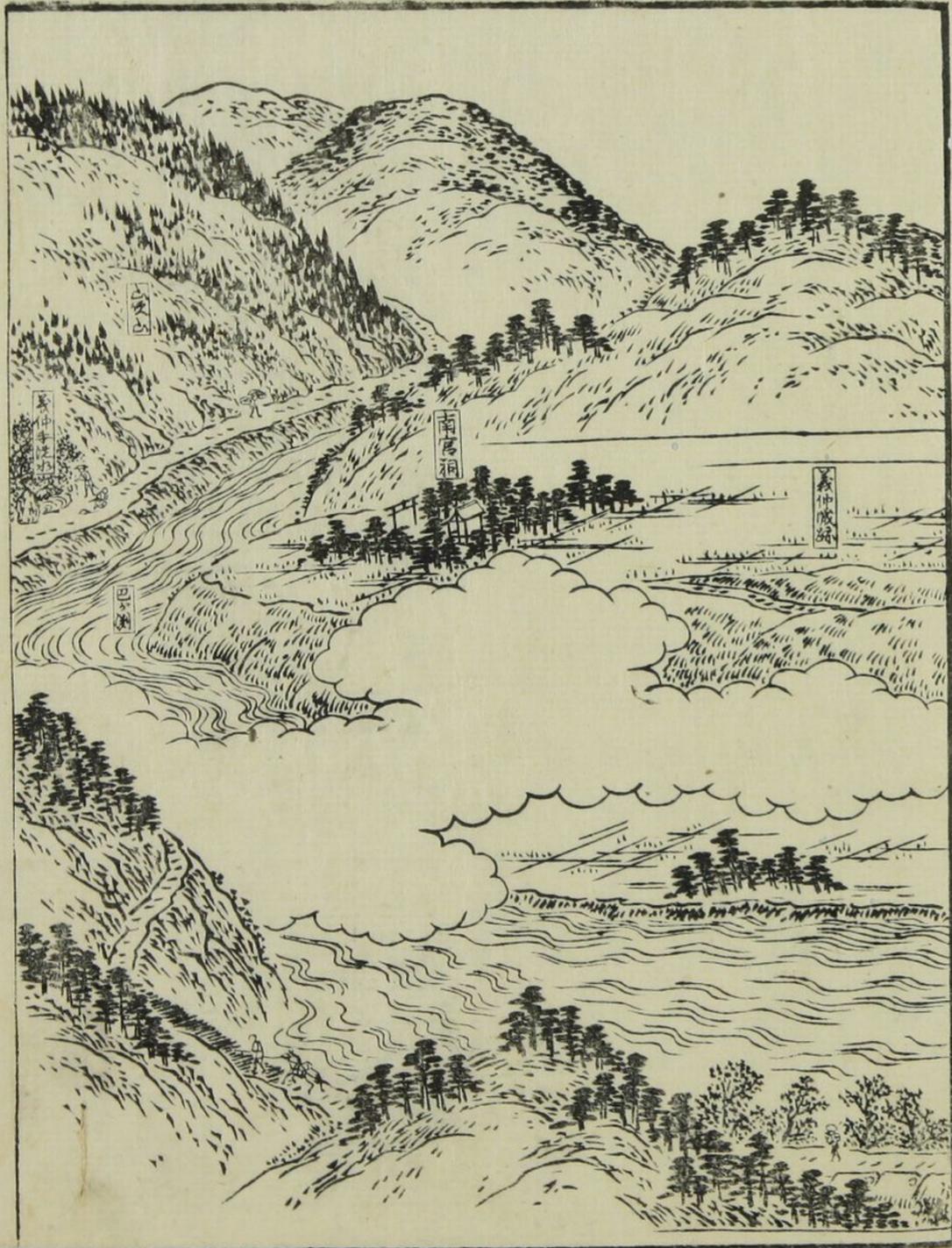
境内小業降堂 十五堂あり

家系と清和天皇七代の孫六條判官為義三男常刀先生義賢

に來り中二兼遠本托以兼遠之稱を書育一鉞と柏原村小築
てこれ小岳と仁安元年柏原八幡宮小築之服以今の文の紙
八幡宮是より名取本名二部義仲と云治承四年平家上皇と
鳥羽の難宮小塾居ふ一時小源二位頼政が勸小川高倉
宮義兵を起し令旨を諸國の源氏賜ふ義仲令をおし兵を
率く承永元年九月九日越後守長茂中根田川原に合戦し
大い小敗る長茂逃走ふ武威益著ふ今井兼平樋口兼光権親
忠根歩の親耳目股肱の臣として越後四天王と稱は日二年五月平
軍十萬越中破浪山小岳義仲逆小岳して大いに越後敗る平軍死ふ
その七万人殘兵京師に逃歸ふ義仲北に逃上り越後岳に登り七月
廿四日上皇殿山小潛幸に義仲供奉し路に入ふと其軍兵凡五萬
平賊帝と奉して西海小岳に義仲父祖の恥を雪む事ふ不世の
功あり八月十六日信濃國信濃ふ左馬頭征夷大將軍に任は上皇又令て

朝日將軍と云頗朝憲よ系トけれこれより高倉宮害小遭ふ其
王子信と云小國小流落を義仲こまに奉して信入即位ありん
夏をこ上皇聽容のら安徳帝の弟君と云天子にまんと是と
年と聽は大小憤怒を合む人ありと義仲小潜と云上皇兵を起
義仲と討人と欲は義仲大小怒り十一月十九日軍以敗し法住寺殿
と攻る官軍大小敗られ公卿令以殞る暴虎神小甚し源頼朝大い小
驚れ範頼義経の二將と使して義仲と征伐を元暦元年正月廿日東
軍洛小入ふ義仲栗津原に敗走し流業小中て首級授く義仲の人
とあり勇猛ありて兵を用ふ事寡と云小衆小勝向ふ所必勝故
年ありて大功を立一世の雄せり小危し物も不學にして術
か誤る大逆小隋ありて事傍む危し

樋口次郎兼光館大樹あり其地
中三権守兼遠の長子なり本名政小流小岳に居戦功あり所傳は



千のり三十九

天王の其一なり元暦元年の春義仲の命汝等兵を率ひ河内
赴き十郎藏人を撃つ正月廿二日東軍洛小入る義仲戦ふる兼光降る
洛小入るん〜これ汝聞く大不悲〜と逆小東軍に降る向ふ法住
寺殿汝攻る多く官人を殺す其罪赦を乞ふ〜と六条河原
においで斬罪せしむ

今井兼平 鞍の東にあり
兼遠の次男なり兄兼光と曰く義仲小住る居戦功あり四天

王の一人なり元暦の春正月廿二日東軍洛小入る兼平兵を率て
勢を拒み軍汝敗る幸救箇度義仲を東に赴き累津原あり奮
戦〜主君の戦死を聞くと忽ち敵軍汝多く敗る馬上ありて自害
後世其忠を賞む

巴御茶筌 鞍の北にあり巴女居る所の下流にあり
中三兼遠が女なり義仲妻とて其勢力あり善戦小妻中

小陸の我小兵を率く將とあり元暦元年正月廿一日東軍洛小入
義仲の軍敗る勢固小勢に士率散るを我兵後七騎巴女
其中にあり義仲巴女向く曰我運命今日小入る死小勢の女
汝勢する幸恐くく後誘あり速小く汝去る〜巴女止む幸汝
得る別ふ又敵の中へ入る内田三郎家吉と〜者大力の士あり
巴女と捕んとて馬と並べ巴女髪を持佩刀と抜首汝のんとて巴女
拳汝拳て其肘と打首汝馬を馳く山路を經本る小路其後
右大将頼朝巴女と召て和国義盛小取如し先多力の男子と生れ
召〜や今以義盛と稱汝納く後朝比奈三郎泰秀と産み頗る
勢力あり〜世に傳ゆ

山吹 鞍の北にあり土人云は所
山吹女の居る所なり

平家物語云義仲小二妻あり一本巴一本山吹元暦の合戦小山吹疾
あり糸作に止る又源平盛衰記云義仲小二妻あり一小葵一小巴何是

も善観山麓破浪山に就死二就日トウハハ威云山吹と森孫別志重
盛が女さうりふと其是のるをををを

荻曾川 荻曾の山中より出る

佐還橋 本を架してあり

德音寺橋 長サ十八間

義仲手洗水 信濃の東道の傍にあり

石碑云 往古木曾義仲公 鎮守南宮神社水

御手洗也 唱來廢年歴久矣 歎之今

新造立石船者也

奈良井まで一里半 駅中南小五町許 相對し

信濃 藪原

巷以ふに其餘山間も散在に

熊野権現祠 別所六月十五日

極樂寺 開山茂林和尚 古島十右衛門の建立

本巻三十一

藪原宅

古島十右衛門の邸 中下邸等の址今も田圃と

五反田橋

藪原の邸にあり 藪原の橋

巢鷹官舎

府下の鷹匠本屋 小鷹の雛を生む

土産 駒

葡萄 本所の諸村みかこを種は 邑特小

名造お六掃

は庭多し

お六掃の本を此山中の名造りて 同小田圃少々

多く諸品を製造これを貸し業とて 特小近年お六掃

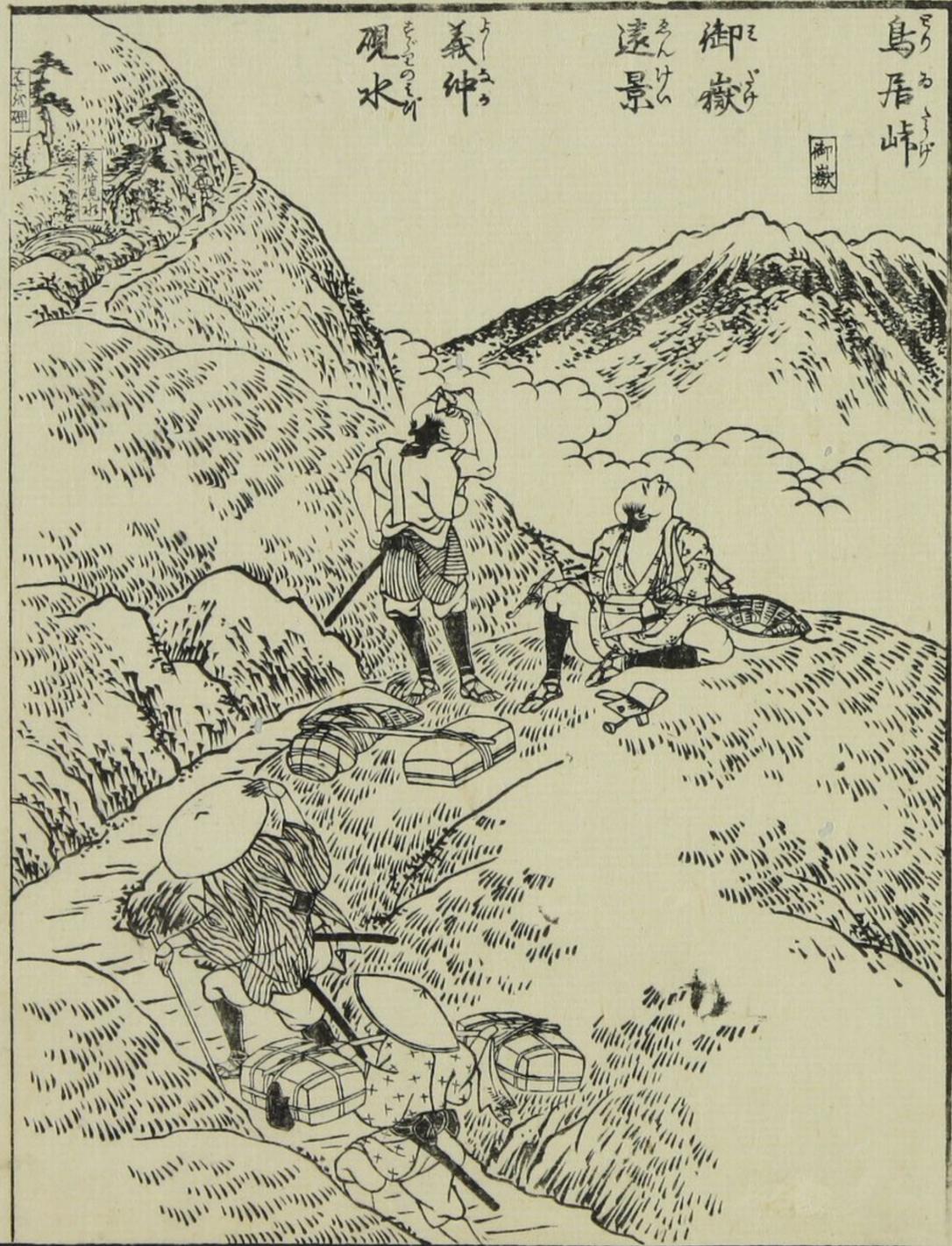
名して諸州小島本を棟梁とて 製は掃のたぐり

伊奘諾尊にして 浄子素盞烏尊 龍の川上まで 奇稲田姫を湯

津の爪掃を浄誓小掃のふり 起まり 其後欽明天皇詔ありて

八品大明神と 崇光根匠の家々 種とをあり

爪掃 掃掃 掃掃 京降後小路大原祠と 修持諾尊 臥糸て 八品



鳥居峠

御嶽

遠景

義仲

硯水

御嶽

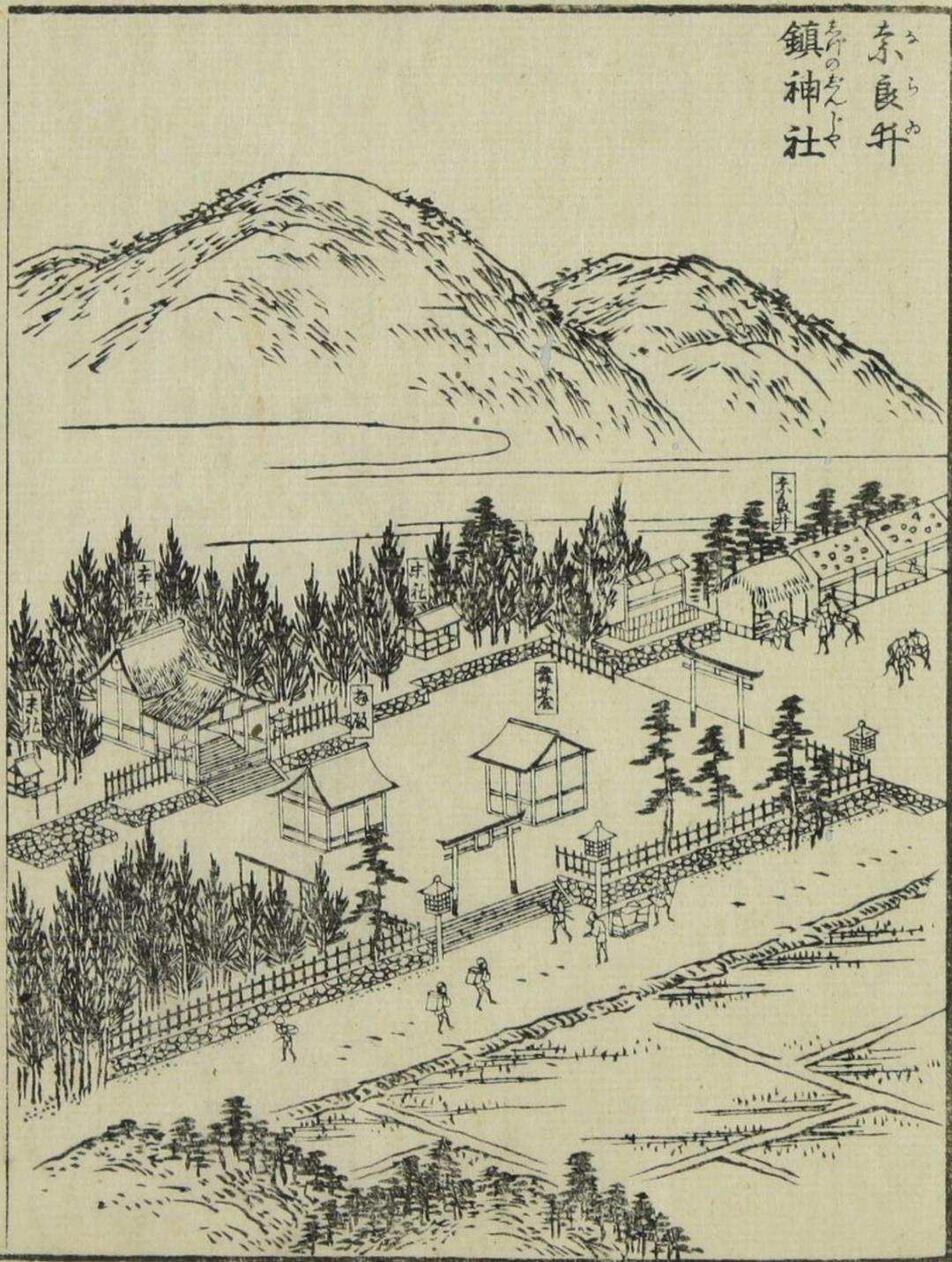
昭神と云は神と云く其恩惠汝報と云く
鳥居嶺 駿河坂嶺馬本系がた危た危なりけり本系
信玄本系義康と云に合戦あり其後天正十年武田勝頼
より今福筑前守武田大將とて人殺八千餘に洩る本系
馬頭義昌信長公の津方とて七子修人あまき鳥居嶺へ馳向ひ
戦ひつるが本系勝利を得て甲州勢と多く討つる度謀書小記より

信長記

武田に布私欲月々小室を率く小旗久本系義昌其外教家
謀及と企り中畧月十二日信忠卿被年より津出陣ありその
夜土田小清宿あり十三日高野十四日岩村小清着あり院河左邊
將監毛利河内守水野監物同宗を藩尉と十二日の未明小岩村より
信列伊奈口へ抄越也月十四日小信列松尾の城主小室系掃助味方
小室忠節と被度とと中紙月付と團平八森勝藏若きと前
早手合して小室原掃助助を討つと烟を揚つるが飯田城小

本系三世二

奈良
鎮神社



鎮大明神祠
經津主命
例東六月二十三日
鎮大明神祠の西は小町里の古傳に云く結年沖矣

鍋懸嶺
伊奈郡の邊にあり
絶頂少く東の方と藤乃乃と云く
天正六年六月二十三日

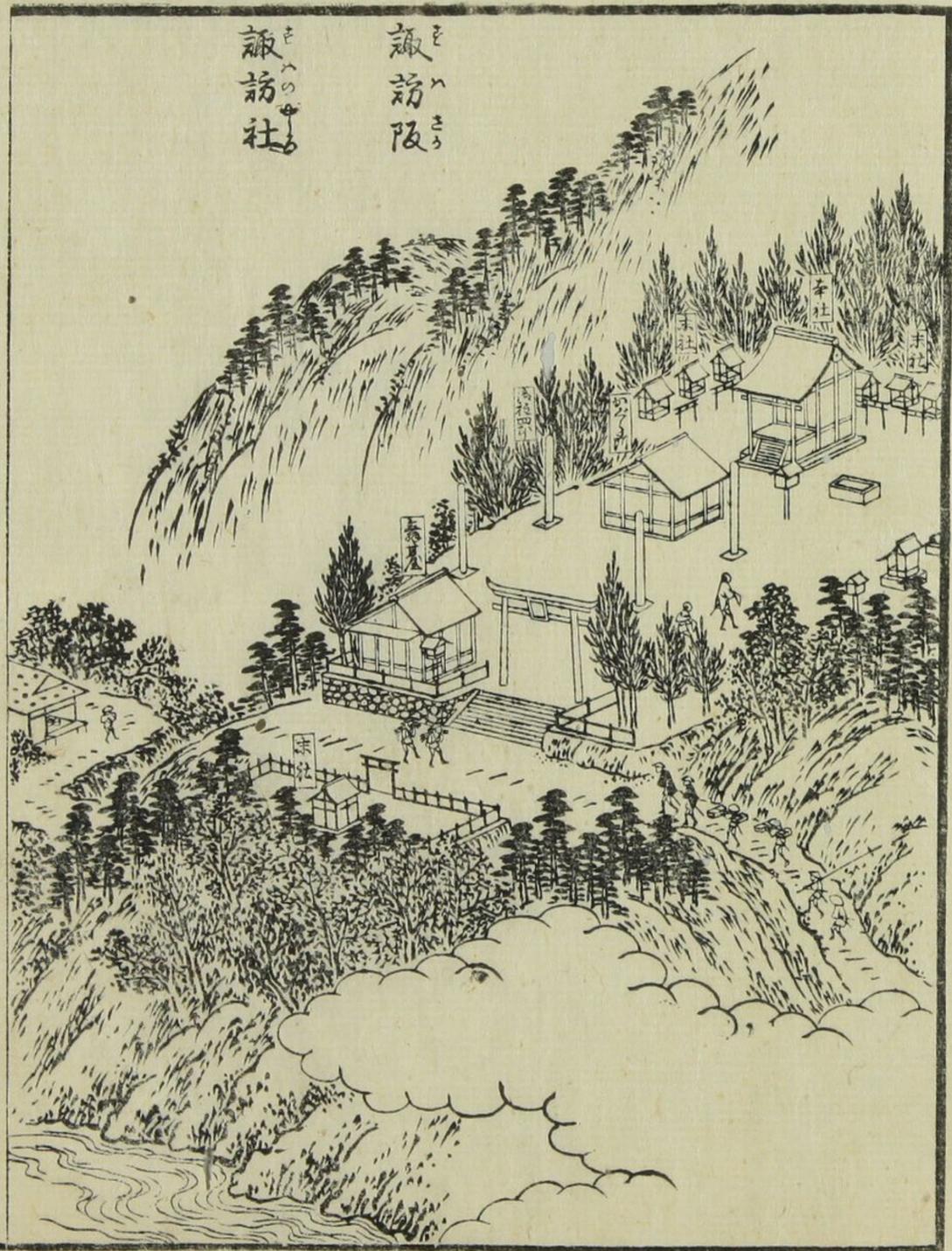
奈良井橋
伊奈郡の邊にあり
絶頂少く東の方と藤乃乃と云く
天正六年六月二十三日

大寶寺
天正六年六月二十三日
伊奈郡の邊にあり
絶頂少く東の方と藤乃乃と云く

義高の墓あり
王龍山と号し
駿河真珠院に属し
傳ふ云く

尚中興を藤田社登古信者
其牌寺あり
信者あり
信者あり

去る系作の部將
居て武名あり
中興あり
信者あり



諏訪社
諏訪殿

宗良井治部少輔義高館信の宅今詳今詳々々以本名麻流伴是也家
千村治部少輔重照宅信の後之天正十八年卒以傳記詳々々々
千村治部少輔重照宅信の後之天正十八年卒以傳記詳々々々
本名義高及義高之舎八郎右衛門重政の子なり父
其後義高下総國戸田小遷不幾なり重照領地八千石
道以致して去る其子孫
今本名義高尾列小奉仕也
土産 稗 粟 蕎麥 村田村にありて
鮭 海より流るる河にありて
尺 許 年毎にこまに漁して
名造諸器 小齋くこれを向本細工といひ
諏訪明神祠 二年に創建年表果りて天正十年本名
義高武田勝頼を不和ありて典厩信豊本舎く本名と
政を為居津の合致本火を叙ら祠を焚く齋記ふ亡
失して事案傳らば例系六月廿二日所の生祀神
本社の口方より河に七ヶ年同毎に月甲寅の日
建致る神樂に舞臺神樂殿
其外末社多し

本名義高

平澤

村の名と杉細工塗物と

熱川

幸山守て武里いりへろ小温泉あり故小熱川也
名はく東山道駅次は所より東に松平領とんる

榎澤

本名岩の圃みか尾刈産の沖領なり尚駅中東西に町
俗相對して巷は方々最般阜たり其地の民俗散在に

熱川

榎澤橋のひびにあり是本名伊奈の地界なり榎澤十式間
造り係る白本改

捕本澤

伊奈郡小野村の界より小野村八ヶ岳神祠七奉ふ
古来例とれ小野村

諏訪社

一社は神とりのり
生土神

観音寺

大同元年田村將軍創建其法華經を屬に寺傳云
千村氏再建と

鷲着寺

曹洞宗飛梅山と号し
宗良并長泉寺小属と

押籠橋

高野の東路中にあり長サ十間本以架して梁と
橋かゝり園道なり

熱川四郎家光家

本名備後お家村の四子なりは取本居を
尾刈氏とて子孫

千村右衛門尉俊政家

本名備後お家村の五子又即家重上列千村
其十世の孫俊政なり本名義康に属しては邑小

萩曾

本名同小散立に
長とたり其家に武田信玄の書一通小笠原貞慶の状
二通本名義男の状
を通を蔵む

獵諸獸

鹿猪羊熊等本名れ中ふら狩と獵に就中
本名同小散立に

萩曾

黒川末川西聖王能等源山岳谷る其甚多し
土産絲綿麻又接骨薬の傳方と技傳を秘く寺勅あり

五月日橋

長七回

夜更着明神祠

本郷山の中... 夜更着の... 明神祠

例東八月

赤川

赤川の... 赤川

秀綱

秀綱の... 秀綱

黒川

黒川の... 黒川

山神

山神の... 山神

駕疲

駕疲の... 駕疲

焼胡

焼胡の... 焼胡

箕作

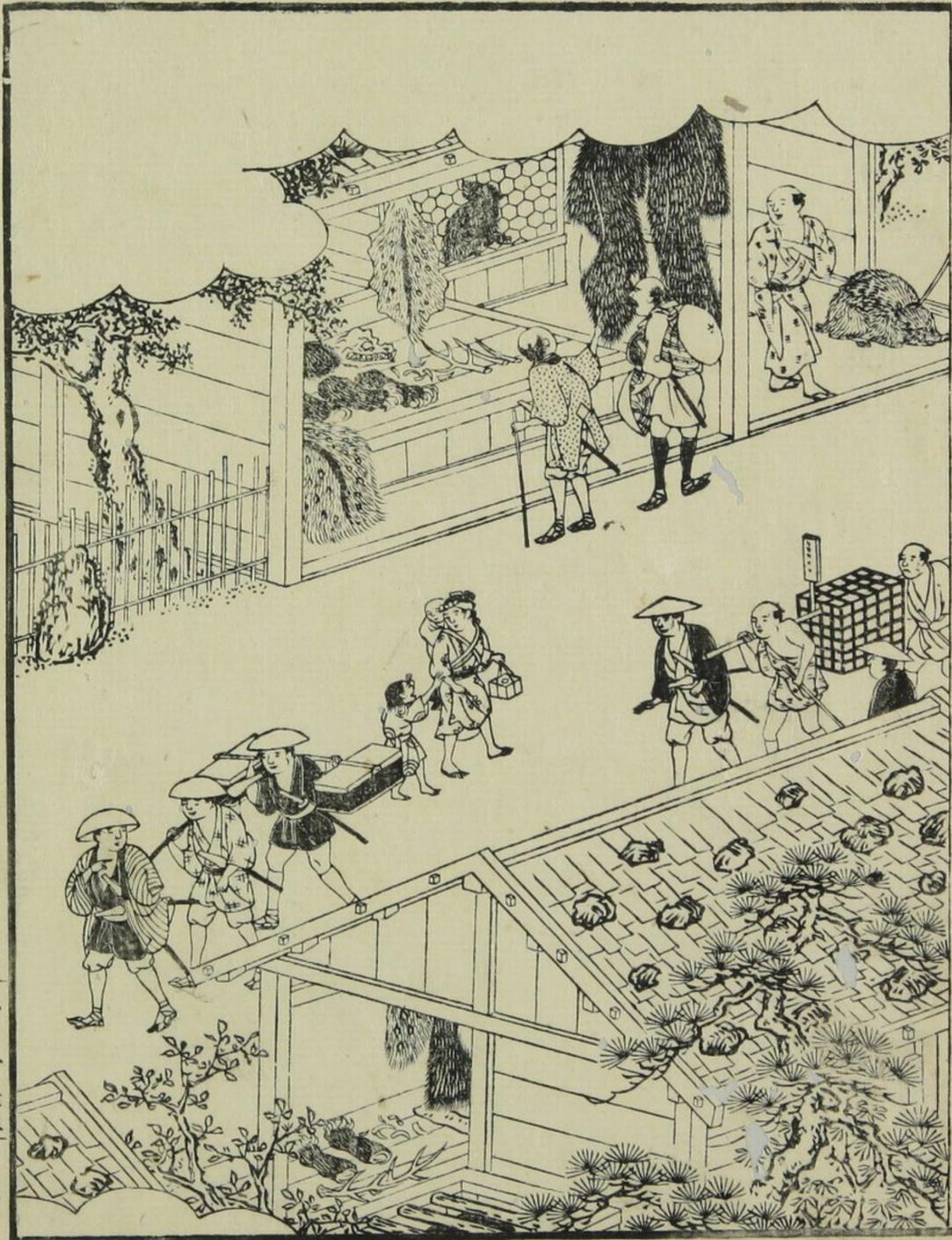
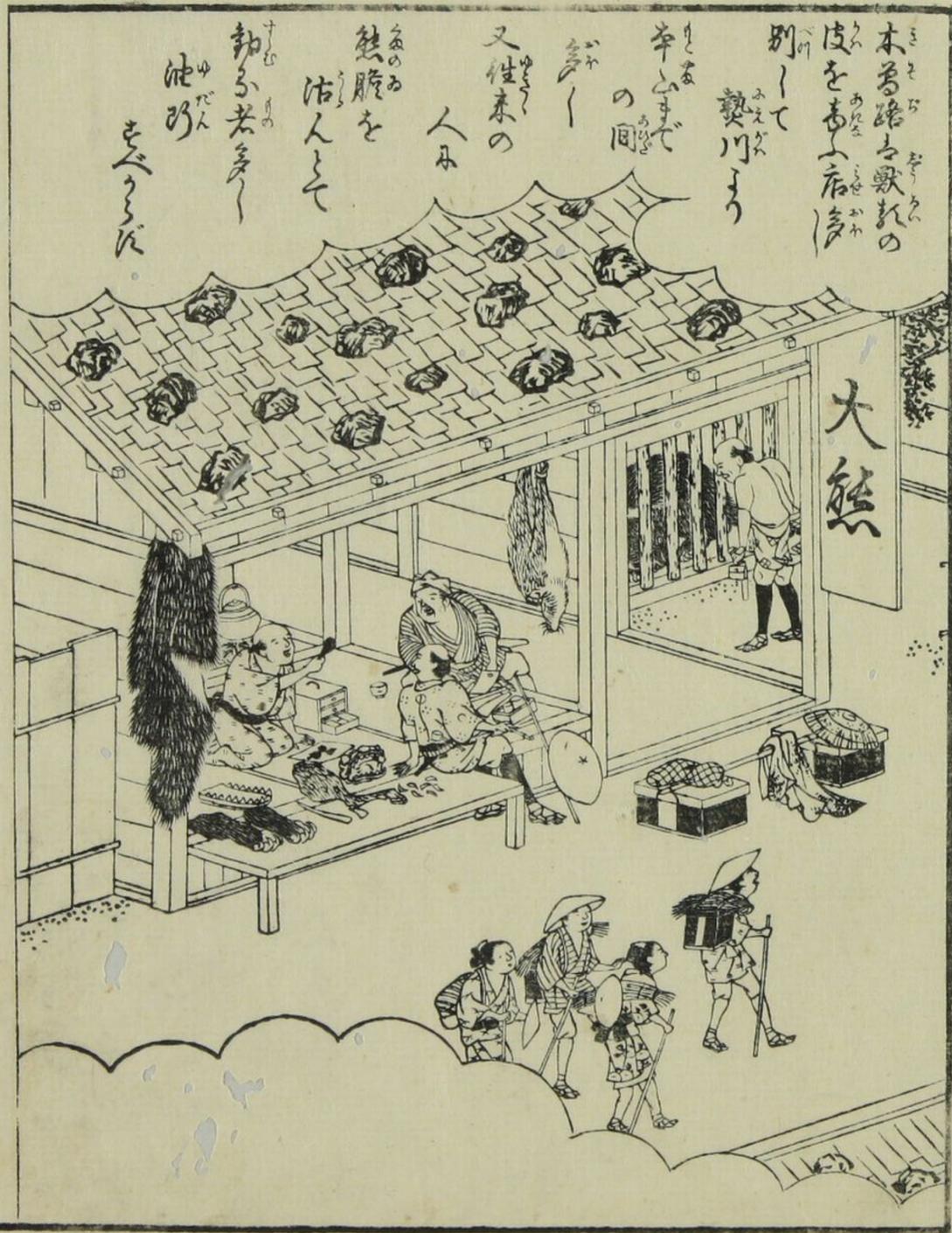
箕作の... 箕作

地 澤 村 中 男 女 共 計 五 十 五 人 毎 年 正 月 五 日 本 郷 祭 行 事 小
 澤 村 中 男 女 共 計 五 十 五 人 毎 年 正 月 五 日 本 郷 祭 行 事 小
 西 野 本 郷 祭 行 事 小 澤 村 中 男 女 共 計 五 十 五 人 毎 年 正 月 五 日 本 郷 祭 行 事 小
 黒 澤 本 郷 祭 行 事 小 澤 村 中 男 女 共 計 五 十 五 人 毎 年 正 月 五 日 本 郷 祭 行 事 小

御 嶽 権 現 祠 黒 沢 村 中 男 女 共 計 五 十 五 人 毎 年 正 月 五 日 本 郷 祭 行 事 小
 奉 社 禮 堂 八 間 奉 社 禮 堂 八 間 寶 藏 一 字 祭 禮 例 年 六 月
 三 年 本 郷 祭 行 事 小 澤 村 中 男 女 共 計 五 十 五 人 毎 年 正 月 五 日 本 郷 祭 行 事 小

本郷三十八

御 嶽 十二 日 十 二 日 福 島 三 寺 の 僧 来 々 大 般 若 經 法 講 心 且 流 法 馬
 三 騎 あり 於 此 御 嶽 へ 登 り 上 る 其 の 崇 齋 七 十 五 日 六 月 十 二 日
 山 小 登 亦 此 祠 の 寶 物 本 郷 祭 行 事 小 澤 村 中 男 女 共 計 五 十 五 人 毎 年 正 月 五 日 本 郷 祭 行 事 小
 一 枝 と 壺 之 乳 麩 の 如 一 一 枝 を 名 づ け 御 松 と 一 盛 夏



とくども山間本積雪あり料本生せば又三里登まば絶頂本至
 二祠あり一は王権現堂のひ一を日権現とて其所の峯に三祠
 あり一と俱利伽羅とてひ一と八王子とてひ一は土祖権現とて
 其東の峰本三池あり一つの池は水涸くふ一は池はあふ一
 一つの池は水満く西登小流る其小流地獄谷とて硫黄多く溪
 川ありて王院ありて濁川とて是硫黄の氣にして其水甚ど
 臭きなり又山上本島あり其島の如く毛交雌雄のてり人と
 見ても驚は山上は一草生れ葉蕨蕪本似たり小瓦候く状董
 葉れおと色紅紫なり名づけく駒草なり又一草あり葉ふ
 似く大さる葉軟にして里人採て喰ふ其種を清菴とて
 氷瀨園道王能小あり滝越本至山路甚と險絶壁數十仞水涸
 傍本欄干とありて実本谷中第一の壯観なり駿次本非ざる
 少なり候也

本卷三十四

土産十一鳥

本卷中に見えられあり形陽嶽の如く一啼声十一と
 諸獸常鹿豹靈羊等山ふ多一捕射も亦多くこれあり
 熊皮いめへと真く本卷の山谷にこれ取獲る熊皮
 山神獨子本卷源山にこれ取獲る熊皮の子はめくみり
 色あひと海向くりるひと海美にして腰の下向く一或る
 無のてと斑文ありて脚黒く人を見く驚は二記正つ
 群成なり十月初雲の後山中の窟舎に入まは侍ふある
 敢て捕はこれを取也まは山神崇となはとて
 岩戸権現祠王院上侍岩間本祠を建清泉岩登より涌出源く
 して絶頂祠家傳云是御嶽の別宮なり毎年六月十六日諸人
 御嶽本登り祠官導を文龜承天文弘治永福等の衆文
 あり又御嶽の縁起一卷あり天正二十年二月中末より書天正
 の年号五十九年より罷所謂二十年と六曆候ありや因に
 むく御嶽の鳥居ありくふくは地と守人ど今本鳥居
 原とて

本曾殿墓 二沢小里人其名沢志只本曾殿と云ふこれ本曾左
系大史義元飛騨の國司合戦しつ小於て軍敗して命以
墮ん即此墓なり人故

權守兼遠墓 三嶋小里古石塔婆なりいづこの人故と云ふと建る
其由詳しかり

崩越古城 三嶋の後北山ト本あり本曾左系左史義元飛騨軍
城拒む要害の遺址なり

三浦山 濃列飛列信列三洲の東なり
三浦山 濃列飛列信列三洲の東なり

は山と津嶽の東山の麓より登り坂子坂と云ふ小於て一峯
みづる名はてお殿せつりゆ一途小津嶽のお殿ありと云

又高嶺も登ると飛濃信三列の界なり標と建と誌と述ふ
山沢下り八町ありて一塔橋あり是九候の界なり其下平

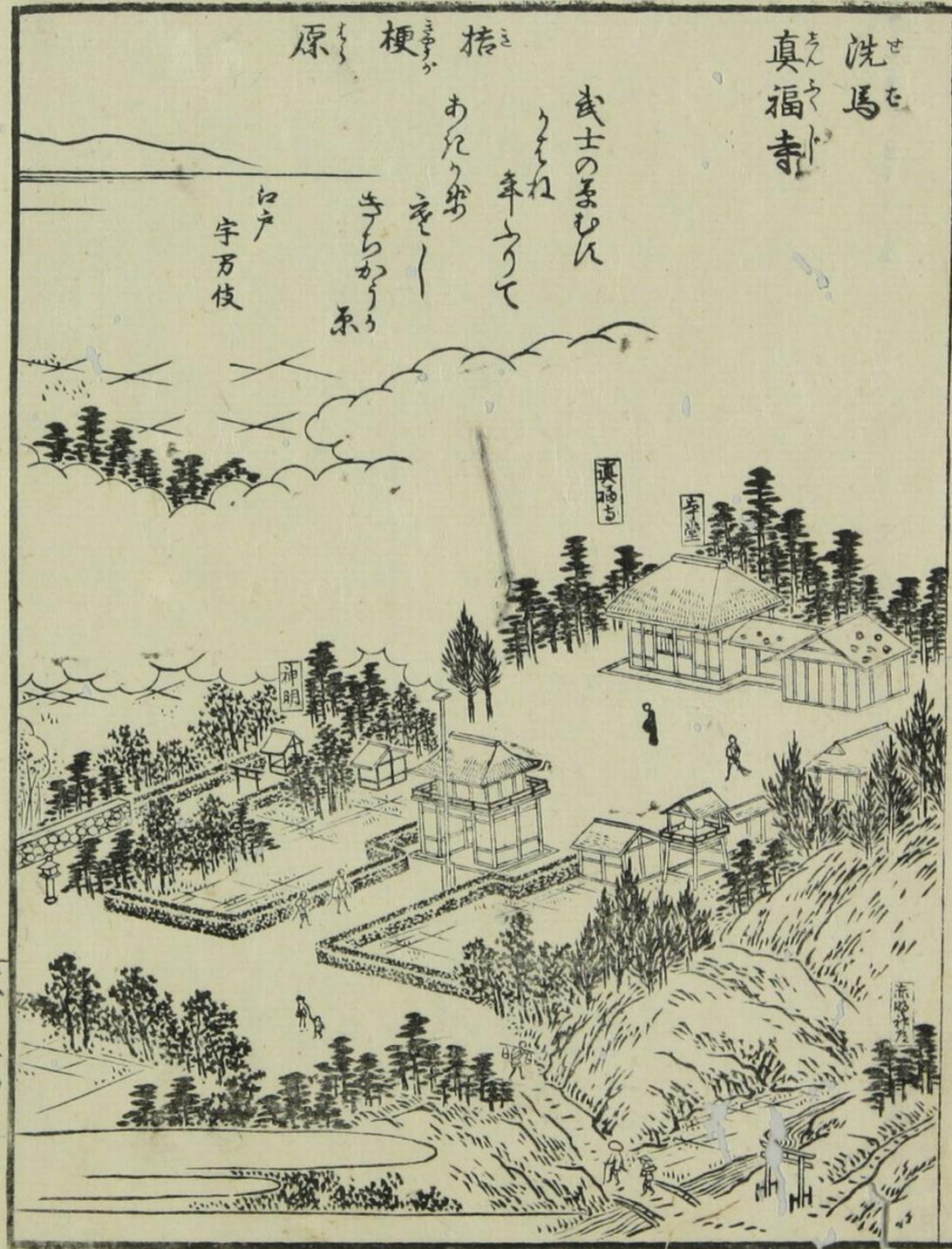
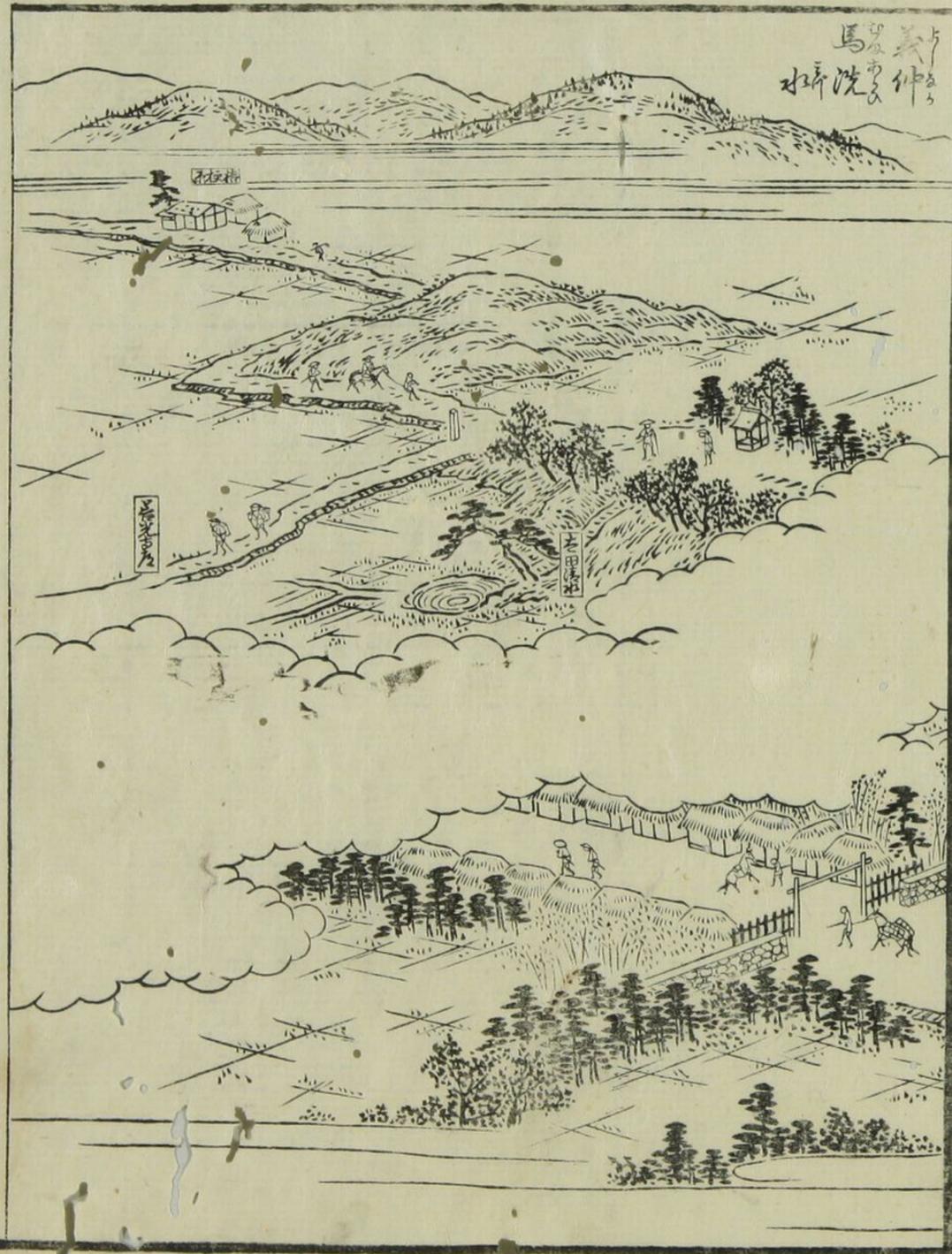
洞あり水無澤と云ふ又高嶺小降む巨巖あり鳥帽子岩と云
つこれと登るとは方傳密歴くせ見へく駿河の富士越此之山

白山も小群なり第六候も至れを洞あり琴沢と云ふ又板屋
本曾二四十二

ありつ小總小所なり已ありて高嶺も登ると其同の山路岩嶽
て任をふし標を架して登をかん狼難辛苦して第九候小をふは色
山高嶺と標むとも地平ありて大道のやろは奥倉崖と云ふ
則津嶽の岬なり其路左色飛列小属し其上を飛列嶽と云飛騨川
あふ出る其路の右色信列小属して絶子嶽と云其下に瀑布あり
秀と散れがみし跡と百間嶽と云是王滝川の源なり下流も本曾の
大河小流合し其上の嶺石壁屹立易くは嶺小これを登ると飛信此
界あふ至ふ九第一候より第九候もなる行程路十里越夫の道小
通ふと下小自若に云る其西岸即本曾王滝山なり其東の岸
山中三浦と云ふ一の板屋あり板小舎と云ふ里人云むつ三浦をま
つ者ありて用襲してろ小居に接せりも寒苦くは短く同茲
居以越越小橋にこれより自若に至る越越小紙ふ九百間嶽より
自若小至つ行程又十里許山中度大なりは山中に良材あり

擬木似る樹あり葉極く小なり信されを都賀と云ふ又一種あり葉細
みして背白くむすして竹の如く輝く裏白擬と云ふ信されと白比る
と名づく又一種あり細葉ありて齊整なり是は虎尾擬と云ふ
信は唐檜とも云ふ種白本葉小可なり又一種あり葉細くして漆を
その何の阿羅と本と号く又新羅松及び五粒松多し一葉槐と云ふ
洞一樹の皮甚く苦く信されと青ぬ古といふ其本を伐て薪
とすふつゝ乾ぐはよ社焼く獮獣を退く云々侵して山を
時は本と伐て焼く火と号く寒と凌ぐまづ樺本あり別本州小種
我は其皮炬と云ふは灰鷓鴣炬と号く蓋これを焼く一みよ入るも
滅ん放小種を使ふその灰は炬を焼く水と照して便を小可し
又白樺と名づくふの何の其皮重なり爲く割とれ紙の如く
炬燵小可なり又樺の本と云ふは皮爲く本理ありこれを
水着ると云ふ 杖小製なり又雲葉本と云ふあり即本州我は

信小色條と号く紫陽小似る葉細長し竹の如く赤実條信ふ
○は山小鳥あり巢穴は離と生け鷓鴣の如く甚く多し又一種鳥乃
乾鶴の如く灰黒色去人呼ばぬ鳥と云ふ是幸州小種山鳥なり又
御嶽岳樹の地小あり取種は如く朱冠青趾羽色黒白相同る其名と
聽と云ふ但し棲と云く雲中にありて見る事かたり
○三浦老丈の宅中三浦山あり里老相傳く云和国合戦の時其族交
小逆く居る其後滋越小移る今に至りて滋越村の百姓は三浦氏と
稱はる種族記して三年移りて猶三浦の字を書き東濫丹和国義盛
殿に敗れて首と授けし時一族を討死に只朝比奈三郎泰秀其後所
残るは泰秀の母と巴女なりは女本名兼遠が女なりて泰秀は兼遠の
孫なり小逆居るも知れず滋越の百姓兼遠を祀りて神
と云ふ三浦老丈の墓中三浦山の中あり古樹多く墳あり是和国義盛
の族建ふなり逆く小居る事略し頗其子勢力ありあり阿比岐國



本巻の三四十三

小郷本行其里人之岩と脚丈六十人少くは往成橋より程り変を以て其子に命じト肩と架して往く里人大小駭く且之本流松竹と杖と一本等小帰ふ又馬と負く心と越る幸流越して見る勢の勢力の朝比奈三郎小あはれと往く河とんあふ小居る変変して疑危うは

一一條と領主の有司本居の山中巡檢のありむれ其本居志を省畧し且本居路駈路小罷りのを

都々落合の駅よりハ驛まで廿一里あり破獲の山路ありて崖路棧道多く難雜辛若の路中なり熱川より柿本村中畑若神子斤平小橋沢大那本大橋沢多く本居路の界とあふ小標本育西と尾別津領東と松本領よりと往と場橋とらふまご大接沢の上よ千足原とらふ所ありて是の本居義仲多く馬成廻り所かりとせ屋た沢と橋あり存る親音堂又岡の森の中に八幡宮の屋一強あり幸山小川り了所

本居の十四

本山

洗馬まで二十所西の入々小橋あり川左小流るこ往も本居山より流是出る本居の幸若ふとあり

本山親音堂

橋あり十間橋爪小龍大神の鳥居ありこれを遠小をぞれ人煙所々して又々新樹程隔く隣たふ小疎一東仍西切の客とみか知ふあはれ村南村あはるこ洗馬の駅小つる

洗馬

塩尻まで一里三十所ハ所より越後高田へ三十を里信列河中流へ十一里松代へ十六里

義仲馬洗水

在田洗水とて洗馬の東にあり

東鑑云

治承四年十月十三日木曾冠者義仲尋亡父義賢主之芳躅出信濃國入上野國仍住人等漸和順之間為俊綱足利太郎也 雖煩民間不可成恐怖思之

由加下知云

善光寺別道 佐馬の東

括梗原

其外 佐馬と括梗原の間にあり 遊働の里なり 此所より北へは 佐馬の山あり 南へは 括梗原あり 西へは 佐馬の山あり 東へは 括梗原あり

武田信玄の嫡子武田吉房

武田信玄の嫡子武田吉房 義信甲府を襲馬あり 小笠原家と攻亡

まぐろ本号に押をさす 吉房は 括梗原に 小笠原家と攻亡

左馬尉飯室三郎幸清尉其外馬場内藤 善目三郎ら五頭を先遣して

既小括梗原に 吉房は 括梗原に 小笠原家と攻亡

之膳を長時と一家の同族の彌良基舎刑殺す 彌良以下三千餘人を

括梗原に 吉房は 括梗原に 小笠原家と攻亡

互ひ小笠原入まて 吉房は 括梗原に 小笠原家と攻亡

て源志とて 吉房は 括梗原に 小笠原家と攻亡

括梗原に 吉房は 括梗原に 小笠原家と攻亡

真藤小田汗馬東為小馳遠の旗南に入孔と防を執り分置と 燈 百千の雷乃一夜中を我があやゆる小笠原勢と今日限とありひ 定一幸あね切まも般も弱らばまき味方此手負死人を踏まえく けは先月とを進ませねらうて信玄の武威強大と成にるなり 此 ち武田軍記狀性を見よ

信 濃 梶原

下諏訪へ三里梶原砦よりある松平領なりは所より四里あり 松平丹波守彦の領地之六万石信列とて山間廣き平原の地 かりは名のあるみか 越後の旁へ流る又松平より仁科を通る

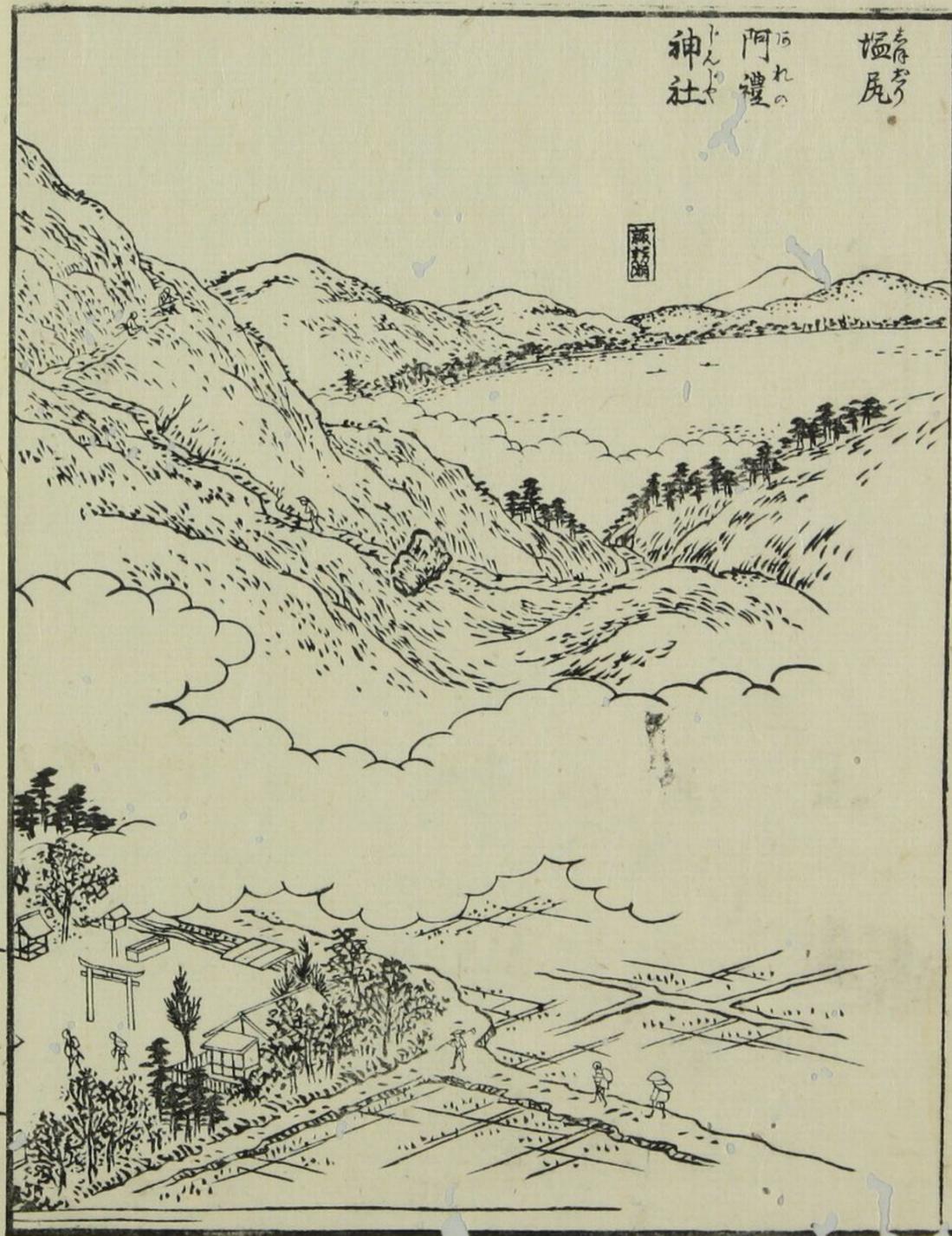
越中へ行道あり

阿禮神社

阿禮神社 佐馬の東にあり 延喜式神名帳小笠原那三座の内之大門村 佐馬の東にあり 延喜式神名帳小笠原那三座の内之大門村 佐馬の東にあり 延喜式神名帳小笠原那三座の内之大門村

大飼清水

大飼清水 佐馬の東にあり 延喜式神名帳小笠原那三座の内之大門村 佐馬の東にあり 延喜式神名帳小笠原那三座の内之大門村



塩尻

塩尻は塩尻と下は後隊の宿あり塩尻より二里登る嶺より
何某と格殺ありし物くは信長も甲斐勢と

信長軍記

武田晴信翌日卯刻に塩尻市に於て

武田晴信翌日卯刻に塩尻市に於て
味方陣を揚ふや否と抜き
はさく切て入浴合せ退る一とせし
味方陣の敵兵も味方陣に
敵の至戦あり味方と長途小勇其上一
有餘の敵兵も味方陣に
六平坂より相戦を甲兵と小勇果
を其見くしり乃信長晴信
屑とも志ありは旗幸成り
の横入あり七頭八例して
戦ひありは
馬とせし紐で首首をさし
ありしは
然れども晴信自兵隊
軍率成勵し之に敵兵
半退るされ
是並四度ありありは
敵軍の中より馬皮
置る麻毛する馬小
乗る者指物を切し
仰殿ありは
晴信の右の股をさし
小突所を晴信其
傍の脇乃首成極を
なすし駿が侍りて
ありしは

本巻二四七

者以馬より逆引あり押へ首をうけ
落れしは
乱れしは
衆合の集り勢あり
小一子切乃合戦し
て子負死人若干
力も
幸八百七十二級あり
晴信の思慮し
終ふありしは
遠く
為し軍勢大に勇あり
諸卒拵首成
是れ中
小山田平次あり
働も他不異とて
則威状を
下され

今十九日卯刻に信州塚原郡塩尻市に於て
捕系神妙之至作跡可抽忠信夏肝要也仍如件

天文十七戊申年七月十九日 晴合

小山田平作左衛門より

晴信と河中将小澤あるれども
一騎も
あるれども
同は十月十日
甲府小澤陣し
終ひる
河中将軍記ありしは
見るべし

浅間せんげん祠ひらは所ところありてしんは所ところよりま土つち山やま向むかひあ合あせせなりなり板いた小こ社しゃあり

大岩おおいわ

塩尻しほじりを立たてた杖つゑ沢ざい村むらここ小こ首くび塚づかありありはは龜かめ古こ我われ場ばありあり長なが坂さか芝しばの
葉はをを立たてた塩尻しほじり嶺ね小こ登のぼ家がここ終はりり西にし尾お尻しり郡ぐん之の左ひだり小こ登のぼ士し塚づか
足あしゆゆ又また詠えい訪ぼうのの湖うみ高たか嶋じまのの城しろをを詳あやししてて四よッッ屋やふふつつりり芝しば見み村むら
よりより蜂はちまきがが炭すすをを立たてた左ひだりの方かた小このの字な山やま足あしゆゆはは所ところ詠えい訪ぼう方かた嶺ねととも
りり小こ坂さか村むら小こ板いた橋はしありあり詠えい訪ぼうのの左ひだりの方かたととりり成なりるるとと戸と川がわよよつつりりここた
もも板いた橋はしありありてて長ながササ十じゅう回かい許ゆる左ひだりの方かた小こ詠えい訪ぼう基もとのの文ぶん々々西にし面めん通と小
坂さかをを立たてたてて遠とほくく遠とほくく下した詠えい訪ぼうのの馬うまふふつつりり詠えい舎や小こ坂さか

本曾路名所圖會卷之三

五ノ八

